

基		本		計		画			
事	項	記 入 欄						備	考
計 画 の 区 分		高等専門学校の学科の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者		ドクリツギョウセイホウジン コクリツコウトウセンモンガッコウキコウ 独立行政法人国立高等専門学校機構							
フ リ ガ ナ 高等専門学校の名称		クレコウギョウコウトウセンモンガッコウ 呉工業高等専門学校							
高等専門学校の位置		広島県呉市阿賀南二丁目2番11号							
高等専門学校の目的		教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 呉工業高等専門学校は、かつて旧海軍の軍港が置かれ、東洋一の技術力を有した海軍工廠を出発点とする工業都市にある高等専門学校として、昭和39年4月の設立当初から、我が国の産業界の発展を支える実践的な技術者を育成し、地域社会に貢献することを使命としてきた。 教育理念として、「開発研究とものづくりの現場を結ぶ人材であれ」～ものづくり現場を理解し企画開発力を持った「中核技術者」の育成～、「地域から世界へ、人類の幸福に貢献する人材であれ」～豊かな人間性と確かな技術力を持ち、人類の福祉と平和、国際社会の持続的発展に貢献するために学び続ける人材の育成～を掲げ、専門的知識・技能の習得のみならず人間的にも優れた人材の育成を目指している。							
新 設 学 科 の 目 的		平成14年に改組の上設置された本校電気情報工学科は、かつて広島県呉市の主力産業であった第二次産業で、ものづくりに従事する技術者を育成することに主眼をおり、電気電子工学、制御工学、通信工学の基礎を広く学修するカリキュラムであった。このため、前回の改組から二十数余年の間に急速な技術発展を遂げてきた、AI・ビッグデータ等に関する最先端の情報技術を習得・活用し、革新的な効率化や付加価値の創出を行うことのできる、いわゆる「先端IT人材」や「高度情報専門人材」と呼ばれる学生育成には、カリキュラムや教員配置、施設・設備面等のあらゆる面で十分な環境とは言えなくなりつつある状況にあった。 このため、高度情報専門人材の確保に向けた本学科の機能強化は、地域企業アンケートからも大きな期待が寄せられており、これを目的として当該新設学科（電気知能情報工学科）を設置する。							
新設学科の概要	新設学科の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	称号	学科の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	電気知能情報工学科 Department of Electrical Engineering and Intelligent Information	年	人	年次人	人	準学士（工学） Associate Degree (Engineering)	工学関係	年 月 第 年次 令和9年4月 第1年次	広島県呉市阿賀南二丁目2番11号
	計	5	40	—	200				
			40	—	200				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		電気情報工学科（廃止）（△40）※令和9年4月学生募集停止							
教育課程	新設学科の名称	開設する授業科目の総数						学級数	卒業要件単位数
	電気知能情報工学科	講義	演習	実験・実習		計			
		115科目	10科目	11科目		136科目	5	167単位	
学科の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	電気知能情報工学科	10 (10)	12 (12)	0 (0)	7 (7)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	
	うち、一般科目担当基幹教員	6 (6)	7 (7)	0 (0)	6 (6)	19 (19)	/	/	
	a. 一般科目担当基幹教員のうち、専ら当該高等専門学校の教育に従事する者	6 (6)	7 (7)	0 (0)	6 (6)	19 (19)			
	b. 一般科目担当基幹教員のうち、年間8単位以上の授業科目を担当する者（aに該当する者を除く。）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	うち、専門科目担当基幹教員	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)			
	a. 専門科目担当基幹教員のうち、専ら当該高等専門学校の教育に従事する者	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)			
	b. 専門科目担当基幹教員のうち、年間8単位以上の授業科目を担当する者（aに該当する者を除く。）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計	10 (10)	12 (12)	0 (0)	7 (7)	29 (29)			0 (0)

高等専門学校設置基準第6条第9項に定める専ら当該高等専門学校の教育に従事する基幹教員の数29人

校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地		90,207㎡		0㎡		0㎡		90,207㎡				
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡		0㎡				
	合 計		90,207㎡		0㎡		0㎡		90,207㎡				
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
			18,246㎡ (18,246㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		18,246㎡ (18,246㎡)				
教 室			29室								高等専門学校全体		
図 書 ・ 設 備	新設学科の名称		図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能 なため、高等専門学校全 体の数
			電気知能情報工学科		86,804〔7,061〕 (86,804〔7,061〕)		3,508〔3,462〕 (3,508〔3,462〕)		137〔30〕 (137〔30〕)		0〔0〕 (0〔0〕)		
	計		86,804〔7,061〕 (86,804〔7,061〕)		3,508〔3,462〕 (3,508〔3,462〕)		137〔30〕 (137〔30〕)		0〔0〕 (0〔0〕)		— (—)	— (—)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設				
			2,953㎡			— ㎡			1,165㎡				
経 費 の 見 積 り 方 法 の 概 要	経費の 見積り の 概 要	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費による			
		教員1人当り研究費等			—	—	—	—	—				
		共 同 研 究 費 等			—	—	—	—	—				
		図 書 購 入 費		—	—	—	—	—	—				
		設 備 購 入 費		—	—	—	—	—	—				
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次					
	— 千円			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円					
	学生納付金以外の維持方法の概要												
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		呉工業高等専門学校										
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	機 械 工 学 科		年	人	年次 人	人	準学士（工学）	倍	昭和39 年度	広島県呉市阿賀南 二丁目2番11号			
	電 気 情 報 工 学 科		5	40	—	200	準学士（工学）	1.09	平成14 年度				
	環 境 都 市 工 学 科		5	40	—	200	準学士（工学）	1.05	平成8年 度				
	建 築 学 科		5	40	—	200	準学士（工学）	1.06	昭和39 年度				
附属施設の概要			名称：実習工場 目的：機械工作の実習 所在地：広島県呉市阿賀南二丁目2番11号 設置年：昭和41年 規模等：660㎡										

(注)

- 1 私立の高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 高等専門学校の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 3 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 4 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

呉工業高等専門学校 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
呉工業高等専門学校				呉工業高等専門学校				
		4年次				4年次		
機械工学科	40		200	機械工学科	40		200	
電気情報工学科	40		200	<u>電気知能情報工学科</u>	<u>40</u>		<u>200</u>	学科の設置(認可又は届出)
環境都市工学科	40		200	環境都市工学科	40		200	
建築学科	40		200	建築学科	40		200	
計	160	3年次 4年次	800	計	160	3年次 4年次	800	
専攻科				専攻科				
プロジェクトデザイン工学専攻	40		80	プロジェクトデザイン工学専攻	40		80	
計	40	-	80	計	40	-	80	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 学 部 等 の 学 年 進 行 終 了 時 に お け る 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	基 幹 教 員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	基 幹 教 員	
	学位又は は称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は は称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
電気情報工学科 (廃止)	準学士 (工学)	工学関係	電気知能情報工学科	5	2	電気知能情報工 学科	準学士 (工学)	工学関係	電気情報工学科	5	2
			退職	1	2				新規採用	1	1
			計	6	4				計	6	3
			計						計		
			計						計		
			計								

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
昭和39年4月	電気工学科 設置		
平成14年4月	電気工学科を電気情報工学科に改組	工学関係	
平成31年4月	電気情報工学科のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
令和9年4月	電気知能情報工学科 設置	工学関係	認可又は届出(学科)
令和9年4月	電気情報工学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(電気知能情報工学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く)		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	☆ <

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニバス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○			1							
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		1	1				1	オムニバス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		18	23	0	15	0	24		
専 門 科 目	工学総合演習Ⅰ	4後			2		○			1						
	工学総合演習Ⅱ	5前			2		○			1						
	卒業研究	5通		10				○	2	7		1				
	応用情報数学	4前			2	○								1	☆	
	電気知能情報概論	1前			1	○				1						
	情報電気数学Ⅰ	2前			1	○				1						
	情報電気数学Ⅱ	3前			1	○				1						
	情報電気数学Ⅲ	3後			1	○				1						
	情報電気数学Ⅳ	4前			2	○			1						☆	
	電気基礎Ⅰ	1前			1	○				1						
	電気基礎Ⅱ	1後			1	○				1						
	電気回路Ⅰ	2前			1	○				1						
	電気回路Ⅱ	2後			1	○				1						
	電気回路Ⅲ	3前			1	○				1						
	電気回路Ⅳ	3後			1	○				1						
	電気回路Ⅴ	4前			1	○								1		
	電気回路Ⅵ	4後			1	○								1		
	電子回路Ⅰ	4前			2	○				1					☆	
	電子回路Ⅱ	4後			2	○				1					☆	
	電気電子材料	3前			1	○				1						
	電子工学Ⅰ	3後			1	○				1						
	電子工学Ⅱ	4前			1	○				1						
	電気磁気学Ⅰ	3前			1	○								1		
	電気磁気学Ⅱ	3後			1	○								1		
	電気磁気学Ⅲ	4前			1	○				1						
	電気磁気学Ⅳ	4後			1	○				1						
	制御情報工学Ⅰ	4前			2	○			1						☆	
	制御情報工学Ⅱ	4後			2	○			1						☆	
	電気・電子・情報計測Ⅰ	2前			1	○				1						
	電気・電子・情報計測Ⅱ	3前			1	○				1						
	情報処理Ⅰ	1後			1	○				1						
	情報処理Ⅱ	2前			1	○				1						
	情報処理Ⅲ	2後			1	○				1						
	論理回路	3前			1	○				1						
	知能情報処理	3後			1	○				1						
	IoTシーケンス制御	3前			1	○			1							
	ものづくり実習	1後			1			○		1		1			共同	
	電気知能情報工学実験Ⅰ	2通		3				○		2					オムニバス	
	電気知能情報工学実験Ⅱ	3通		4				○		3					オムニバス・共同(一部)	
	電気知能情報工学実験Ⅲ	4通		4				○		4					オムニバス・共同(一部)	
	情報通信工学	4後			2	○						1			☆	
	情報理論	4後			1	○				1						
	数理最適化	5後			2	○				1					☆	
	データサイエンス	5前			2	○			1						☆	

機械学習	5前			2		○			1					☆
深層学習	5後			2		○			1					☆
信号処理	5後			1		○				1				
情報ネットワーク	5前			1		○				1				
情報セキュリティ	5後			2		○							1	☆
情報数理	5前			1		○				1				
エネルギー変換工学	4後			2		○			1					☆
スマートエネルギー変換工学	5前			2		○			1					☆
スマートエネルギーネットワーク工学	5後			2		○			1					☆
スマートエネルギー発生工学	5後			2		○			1				1	☆
I C設計工学	4前			1		○			1					
スマートパワーエレクトロニクス	5前			2		○			1					☆
電気知能情報工学演習	3前			1			○		1					留学生に開設
校外実習	4前			1				○		1				
特別専門講義A	1～5前・後			1		○								
特別専門講義B	1～5前・後			1		○								
特別専門講義C	1～5前・後			1		○								
特別専門講義D	1～5前・後			1		○								
小計（62科目）	—	—	25	73	0	—			16	49	0	3	0	7
合計（136科目）	—	—	25	175	0	—			34	72	0	18	0	31
学位又は称号	準学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係						
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等						
卒業要件：一般科目から75単位、専門科目から82単位を修得し、合計167単位以上修得すること。 履修指導方法：1年生には新入生ガイダンスにて教務主事より、2年生から5年生には新年度ガイダンスにて教務主事より履修方法について指導している。								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業の標準時間			90分			

- （注）
- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(電気情報工学科 エネルギー制御コース)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く)		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	☆

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニハス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○			1							
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		1	1				1	オムニハス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		18	23	0	15	0	24		
専門科目	工学総合演習Ⅰ	4後			2		○		1							
	工学総合演習Ⅱ	5前			2		○			1						
	卒業研究	5通		10				○	2	7		1				
	応用数学	4前			2	○								1	☆	
	電気情報概論	1前			1	○				1						
	電気数学Ⅰ	2前			1	○								1		
	電気数学Ⅱ	3前			1	○				1						
	電気数学Ⅲ	3後			1	○				1						
	電気数学Ⅳ	4前			2	○								1	☆	
	電気基礎Ⅰ	1前			1	○				1						
	電気基礎Ⅱ	1後			1	○				1						
	電気回路Ⅰ	2前			1	○				1						
	電気回路Ⅱ	2後			1	○				1						
	電気回路Ⅲ	3前			1	○				1						
	電気回路Ⅳ	3後			1	○				1						
	電気回路Ⅴ	4前			1	○								1		
	電気回路Ⅵ	4後			1	○								1		
	電子回路Ⅰ	4前			2	○				1					☆	
	電子回路Ⅱ	4後			2	○				1					☆	
	電気電子材料	3後			1	○			1							
	電子工学Ⅰ	3後			1	○			1							
	電子工学Ⅱ	4前			1	○			1							
	電気磁気学Ⅰ	3前			1	○								1		
	電気磁気学Ⅱ	3後			1	○			1							
	電気磁気学Ⅲ	4前			1	○				1						
	電気磁気学Ⅳ	4後			1	○				1						
	制御工学Ⅰ	4前			2	○			1						☆	
	制御工学Ⅱ	4後			2	○			1						☆	
	電気・電子計測Ⅰ	2前			1	○			1							
	電気・電子計測Ⅱ	3前			1	○			1							
	情報処理Ⅰ	1後			1	○			1							
	情報処理Ⅱ	2前			1	○			1							
	情報処理Ⅲ	2後			1	○				1						
	情報処理Ⅳ	3前			1	○				1						
	情報処理Ⅴ	3後			1	○			1							
	シーケンス制御	3前			1	○			1							
	ものづくり実習	1後			1			○		1		1			共同	
	電気情報工学実験Ⅰ	2通			3			○		2					オムニハス	
	電気情報工学実験Ⅱ	3通			4			○	1	1		1			オムニハス・共同(一部)	
	エネルギー制御工学実験	4通			4			○	1	1					オムニハス・共同(一部)	
	エネルギー変換工学Ⅰ	4後			2	○			1						☆	
	エネルギー変換工学Ⅱ	5前			2	○			1						☆	
	エネルギー変換工学Ⅲ	5後			2	○			1						☆	
	エネルギーネットワーク工学Ⅰ	5前			1	○			1							

エネルギーネットワーク工学Ⅱ	5前			2	○		1					☆
エネルギー発生工学Ⅰ	5前			1	○						1	
エネルギー発生工学Ⅱ	5後			1	○						1	
電気工学演習	3前			1		○	1					留学生に開設
通信工学Ⅰ	4後			2	○						1	☆
通信工学Ⅱ	5後			2	○						1	☆
電磁界理論	5前			2	○						1	☆
アルゴリズム	5後			2	○		1					☆
信号処理	5前			1	○						1	
情報ネットワーク	5前			1	○		1					
情報理論	4前			1	○			1				
ⅠC設計工学	4後			1	○		1		1			共同
応用電子回路	5後			2	○		1			1		☆
パワーエレクトロニクス	5後			2	○		1					☆
校外実習	4前			1		○	1					
特別専門講義A	1～5前・後			1	○							
特別専門講義B	1～5前・後			1	○							
特別専門講義C	1～5前・後			1	○							
特別専門講義D	1～5前・後			1	○							
小計（63科目）	—	—	14	84	0	—	29	29	0	4	0	12
合計（137科目）	—	—	14	186	0	—	47	52	0	19	0	36
学位又は称号	準学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係					
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等					
卒業要件：一般科目から75単位、専門科目から82単位を修得し、合計167単位以上修得すること。 履修指導方法：1年生には新入生ガイダンスにて教務主事より、2年生から5年生には新年度ガイダンスにて教務主事より履修方法について指導している。							1 学年の学期区分			2期		
							1 学期の授業期間			15週		
							1 時限の授業の標準時間			90分		

- （注）
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(電気情報工学科 情報通信コース)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	☆ <

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニハス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○			1							
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		1	1				1	オムニハス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		18	23	0	15	0	24		
専門科目	工学総合演習Ⅰ	4後			2		○		1							
	工学総合演習Ⅱ	5前			2		○			1						
	卒業研究	5通		10				○	2	7		1				
	応用数学	4前			2	○								1	☆	
	電気情報概論	1前			1	○				1						
	電気数学Ⅰ	2前			1	○								1		
	電気数学Ⅱ	3前			1	○				1						
	電気数学Ⅲ	3後			1	○				1						
	電気数学Ⅳ	4前			2	○								1	☆	
	電気基礎Ⅰ	1前			1	○				1						
	電気基礎Ⅱ	1後			1	○				1						
	電気回路Ⅰ	2前			1	○				1						
	電気回路Ⅱ	2後			1	○				1						
	電気回路Ⅲ	3前			1	○				1						
	電気回路Ⅳ	3後			1	○				1						
	電気回路Ⅴ	4前			1	○								1		
	電気回路Ⅵ	4後			1	○								1		
	電子回路Ⅰ	4前			2	○				1					☆	
	電子回路Ⅱ	4後			2	○				1					☆	
	電気電子材料	3後			1	○			1							
	電子工学Ⅰ	3後			1	○			1							
	電子工学Ⅱ	4前			1	○			1							
	電気磁気学Ⅰ	3前			1	○								1		
	電気磁気学Ⅱ	3後			1	○			1							
	電気磁気学Ⅲ	4前			1	○				1						
	電気磁気学Ⅳ	4後			1	○				1						
	制御工学Ⅰ	4前			2	○			1						☆	
	制御工学Ⅱ	4後			2	○			1						☆	
	電気・電子計測Ⅰ	2前			1	○			1							
	電気・電子計測Ⅱ	3前			1	○			1							
	情報処理Ⅰ	1後			1	○			1							
	情報処理Ⅱ	2前			1	○			1							
	情報処理Ⅲ	2後			1	○				1						
	情報処理Ⅳ	3前			1	○				1						
	情報処理Ⅴ	3後			1	○			1							
	シーケンス制御	3前			1	○			1							
	ものづくり実習	1後			1			○		1		1			共同	
	電気情報工学実験Ⅰ	2通			3			○		2					オムニハス	
	電気情報工学実験Ⅱ	3通			4			○	1	1		1			オムニハス・共同(一部)	
	情報通信工学実験	4通			4			○		1		1			オムニハス・共同(一部)	
	通信工学Ⅰ	4後			2	○								1	☆	
	通信工学Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	電磁界理論	5前			2	○								1	☆	
	アルゴリズム	5後			2	○			1						☆	

信号処理	5前			1		○								1	留学生に開設 ☆ ☆ ☆ ☆ 1 1 共同 ☆ ☆
情報ネットワーク	5前			1		○			1						
情報理論	4前			1		○				1					
電気工学演習	3前			1			○		1						
エネルギー変換工学Ⅰ	4後			2		○			1						
エネルギー変換工学Ⅱ	5前			2		○			1						
エネルギー変換工学Ⅲ	5後			2		○			1						
エネルギーネットワーク工学Ⅰ	5前			1		○			1						
エネルギーネットワーク工学Ⅱ	5前			2		○			1						
エネルギー発生工学Ⅰ	5前			1		○							1		
エネルギー発生工学Ⅱ	5後			1		○						1	1		
ⅠC設計工学	4後			1		○			1			1			
応用電子回路	5後			2		○			1						
パワーエレクトロニクス	5後			2		○			1						
校外実習	4前			1			○		1						
特別専門講義A	1～5前・後			1		○									
特別専門講義B	1～5前・後			1		○									
特別専門講義C	1～5前・後			1		○									
特別専門講義D	1～5前・後			1		○									
小計（63科目）	—	—	14	84	0	—	—	—	28	29	0	5	0	12	
合計（137科目）	—	—	14	186	0	—	—	—	46	52	0	20	0	36	
学位又は称号	準学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件：一般科目から75単位、専門科目から82単位を修得し、合計167単位以上修得すること。 履修指導方法：1年生には新入生ガイダンスにて教務主事より、2年生から5年生には新年度ガイダンスにて教務主事より履修方法について指導している。								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業の標準時間				90分			

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(機械工学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	☆ <

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニバス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○				1						
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		2					1	オムニバス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		18	25	0	9	0	28		
専門科目	工学総合演習Ⅰ	4後			2		○			1						
	工学総合演習Ⅱ	5前			2		○		3			1			オムニバス	
	卒業研究	5通		10				○	5	2		1				
	応用数学	3後			1	○				1						
	確率統計	4前			2	○			1						☆	
	情報処理Ⅰ	2前			1	○				1						
	情報処理Ⅱ	2後			1	○				1						
	情報処理Ⅲ	4後			2	○				1					☆	
	材料力学Ⅰ	3前			1	○			1							
	材料力学Ⅱ	3後			1	○			1							
	材料力学Ⅲ	4前			1	○			1							
	材料力学Ⅳ	4後			1	○			1							
	機械力学Ⅰ	5前			2	○					1				☆	
	機械力学Ⅱ	5後			2	○					1				☆	
	加工学Ⅰ	3前			1	○					1					
	加工学Ⅱ	3後			1	○					1					
	加工学Ⅲ	5後			1	○					1					
	材料学Ⅰ	2前			1	○			1							
	材料学Ⅱ	3前			1	○			1							
	材料学Ⅲ	4後			2	○			1						☆	
	熱工学Ⅰ	4前			1	○								1		
	熱工学Ⅱ	4後			1	○								1		
	熱工学Ⅲ	5前			1	○								1		
	熱機関	5前			2	○								1	☆	
	流体工学Ⅰ	4前			1	○			1							
	流体工学Ⅱ	4後			1	○			1							
	流体工学Ⅲ	5前			1	○			1							
	流体工学Ⅳ	5後			1	○			1							
	機械設計概論	1後			1	○			1							
	機構学	2後			1	○				1						
	機械要素設計Ⅰ	3後			1	○			1							
	機械要素設計Ⅱ	4前			2	○			1						☆	
	CAM/CAE	3前			1	○					1					
	機械設計特論	4前			2	○			5	1		2			☆オムニバス・共同(一部)	
	先端工学	5後			2	○								1	☆	
	経営工学	5前			2	○			1						☆	
	論理回路	3前			1	○				1						
	制御工学	4前			2	○				1					☆	
	計測工学	4後			2	○								1	☆	
	ロボティクス基礎	2後			1	○			1							
	電気工学	3前			1	○								1		
	メカトロニクス	4前			2	○				1					☆	
	機械設計製図Ⅰ	1通			2		○					1				
	機械設計製図Ⅱ	2通			2		○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(環境都市工学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	
	現代文Ⅱ	1後			1		○										
	現代文Ⅲ	2前			1		○				1						
	日本語表現力基礎	3前			1		○									1	
	日本文学	4後			2		○									1	☆
	古典文学Ⅰ	1後			1		○									1	
	古典文学Ⅱ	2後			1		○									1	
	歴史総合Ⅰ	1前			1		○				1						
	歴史総合Ⅱ	1後			1		○				1						
	公共Ⅰ	2前			1		○				1						
	公共Ⅱ	2後			1		○				1						
	地理総合	3後			1		○				1						
	技術者倫理	5前			2		○				1						☆
	英語Ⅰ	1前			1		○				1						
	英語Ⅱ	1後			1		○				1						
	英語Ⅲ	2前			1		○						1				
	英語Ⅳ	2後			1		○						1				
	英語Ⅴ	3前			2		○									1	
	英語Ⅵ	3後			2		○									1	
	英語Ⅶ	4前			2		○							1			☆
	英語Ⅷ	4後			2		○							1			☆
	英語Ⅸ	5前			2		○							1			☆
	英語表現Ⅰ	1前			1		○				1						
	英語表現Ⅱ	1後			1		○				1						
	英語表現Ⅲ	2前			1		○									1	
	英語表現Ⅳ	2後			1		○									1	
	芸術	2後			1		○				1					3	共同
	保健	1前			1		○					1					
	体育Ⅰ	1通			2					○	1						
	体育Ⅱ	2通			2							1					
	体育Ⅲ	3通			2											1	
	体育Ⅳ	4前			1											1	
	体育Ⅴ	5後			1						1						
	日本語・日本事情Ⅰ	3通			4		○									1	留学生に開設
	日本語・日本事情Ⅱ	4通			2		○									1	留学生に開設
	日本語・日本事情Ⅲ	5前			1		○									1	留学生に開設
	基礎数学AⅠ	1前			2		○							1			
	基礎数学AⅡ	1後			1		○							1			
	数学AⅠ	2前			1		○							1			
	数学AⅡ	2後			2		○							1			
数学AⅢ	3前			2		○							1				
数学AⅣ	3後			2		○							1				
基礎数学BⅠ	1前			1		○				1							
基礎数学BⅡ	1後			1		○							1				
数学BⅠ	2前			1		○				1							
数学BⅡ	2後			1		○				1							
基礎数学C	1後			1		○				1							
物理Ⅰ	1前			1		○					1						
物理Ⅱ	1後			1		○					1						
物理Ⅲ	2前			1		○					1						
物理Ⅳ	2後			1		○					1						
物理Ⅴ	3前			1		○				1							
物理Ⅵ	3後			1		○				1							

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニハス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○			1							
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		3					1	オムニハス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		22	21	0	12	0	26		
専 門 科 目	測量Ⅰ	1前			1	○				1						
	測量Ⅱ	1後			1	○			1							
	実験実習Ⅰ	1通			2			○		1						
	実験実習Ⅱ	2通			4			○	3						オムニハス・共同(一部)	
	実験実習Ⅲ	3通			4			○	1	1				1	オムニハス・共同(一部)	
	実験実習Ⅳ	4通			4			○	3						オムニハス・共同(一部)	
	設計製図Ⅰ	4前			1			○	1							
	設計製図Ⅱ	5前			1			○	1							
	工学総合演習Ⅰ	4後			2			○	1							
	工学総合演習Ⅱ	5前			2			○	1					1	共同	
	卒業研究	5通		10				○	7	2						
	応用数学	4前			2	○				1					☆	
	情報処理Ⅰ	2前			1	○			1							
	土木CAD	3前			1	○				1						
	建設施工Ⅰ	3後			1	○			1							
	建設施工Ⅱ	4前			1	○			1							
	交通計画	3後			1	○			1							
	都市計画	3前			1	○			1							
	交通システム工学	4前			1	○			1							
	社会基盤計画学	5前			2	○			1						☆	
	建設材料	1後			1	○			1							
	コンクリート工学Ⅰ	2前			1	○			1							
	コンクリート工学Ⅱ	2後			1	○			1							
	コンクリート構造Ⅰ	4前			1	○			1							
	コンクリート構造Ⅱ	4後			1	○			1							
	鋼構造Ⅰ	4後			1	○			1							
	鋼構造Ⅱ	5前			1	○			1							
	構造力学Ⅰ	3前			1	○			1							
	構造力学Ⅱ	3後			1	○			1							
	構造力学Ⅲ	4前			2	○			1						☆	
	構造力学Ⅳ	4後			2	○			1						☆	
	水理学Ⅰ	3前			1	○				1						
	水理学Ⅱ	3後			1	○				1						
	水理学Ⅲ	4前			2	○			1						☆	
	水理学Ⅳ	4後			2	○			1						☆	
	河川工学Ⅰ	4後			1	○			1							
	土質力学Ⅰ	3前			1	○				1						
	土質力学Ⅱ	3後			1	○				1						
	土質力学Ⅲ	4前			2	○								1	☆	
	土質力学Ⅳ	4後			2	○								1	☆	
	防災工学Ⅰ	5前			2	○			1					3	☆共同	
	自然生態学	2前			1	○				1						
	環境工学	2後			1	○								1		
	水環境工学Ⅰ	3前			1	○								1		

水環境工学Ⅱ	3後			1		○		1						1	☆
環境保全	4後			2		○									☆
遺伝子工学概論	5前			2		○		1							留学生に開設
環境工学演習	3前			1			○	1							
情報処理Ⅱ	5後			1		○			1						
測量Ⅲ	5後			2		○		1							☆
河川工学Ⅱ	5後			2		○		1							☆
防災工学Ⅱ	5後			2		○		1							☆共同
環境生物学	5後			2		○			1						☆
環境分析化学	5後			2		○		1							☆
環境都市工学演習Ⅰ	5前			1			○	1							
環境都市工学演習Ⅱ	5前			1			○	1							
校外実習	4前			1					1						
特別専門講義A	1～5前・後			1		○									
特別専門講義B	1～5前・後			1		○									
特別専門講義C	1～5前・後			1		○									
特別専門講義D	1～5前・後			1		○									
小計（61科目）	—	—	32	66	0	—	—	50	15	0	0	0	0	13	
合計（135科目）	—	—	32	168	0	—	—	72	36	0	12	0	0	39	
学位又は称号	準学士（工学）					学位又は学科の分野		工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件：一般科目から75単位、専門科目から82単位を修得し、合計167単位以上修得すること。 履修指導方法：1年生には新入生ガイダンスにて教務主事より、2年生から5年生には新年度ガイダンスにて教務主事より履修方法について指導している。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業の標準時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(建築学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
一般科目	現代文Ⅰ	1前			1		○				1					1	
	現代文Ⅱ	1後			1		○										
	現代文Ⅲ	2前			1		○				1						
	日本語表現力基礎	3前			1		○				1						
	日本文学	4後			2		○									1	☆
	古典文学Ⅰ	1後			1		○									1	
	古典文学Ⅱ	2後			1		○									1	
	歴史総合Ⅰ	1前			1		○				1						
	歴史総合Ⅱ	1後			1		○				1						
	公共Ⅰ	2前			1		○									1	
	公共Ⅱ	2後			1		○									1	
	地理総合	3後			1		○				1						
	技術者倫理	5前			2		○				1						☆
	英語Ⅰ	1前			1		○				1						
	英語Ⅱ	1後			1		○				1						
	英語Ⅲ	2前			1		○						1				
	英語Ⅳ	2後			1		○						1				
	英語Ⅴ	3前			2		○									1	
	英語Ⅵ	3後			2		○									1	
	英語Ⅶ	4前			2		○							1			☆
	英語Ⅷ	4後			2		○							1			☆
	英語Ⅸ	5前			2		○							1			☆
	英語表現Ⅰ	1前			1		○				1						
	英語表現Ⅱ	1後			1		○				1						
	英語表現Ⅲ	2前			1		○									1	
	英語表現Ⅳ	2後			1		○									1	
	芸術	2後			1		○				1					3	共同
	保健	1前			1		○					1					
	体育Ⅰ	1通			2					○						1	
	体育Ⅱ	2通			2					○						1	
	体育Ⅲ	3通			2					○						1	
	体育Ⅳ	4前			1					○						1	
	体育Ⅴ	5後			1					○	1						
	日本語・日本事情Ⅰ	3通			4			○								1	留学生に開設
	日本語・日本事情Ⅱ	4通			2			○								1	留学生に開設
	日本語・日本事情Ⅲ	5前			1			○								1	留学生に開設
	基礎数学AⅠ	1前			2			○							1		
	基礎数学AⅡ	1後			1			○							1		
	数学AⅠ	2前			1			○							1		
	数学AⅡ	2後			2			○							1		
数学AⅢ	3前			2			○			1							
数学AⅣ	3後			2			○			1							
基礎数学BⅠ	1前			1			○							1			
基礎数学BⅡ	1後			1			○							1			
数学BⅠ	2前			1			○			1							
数学BⅡ	2後			1			○			1							
基礎数学C	1後			1			○						1				
物理Ⅰ	1前			1			○				1						
物理Ⅱ	1後			1			○				1						
物理Ⅲ	2前			1			○				1						
物理Ⅳ	2後			1			○				1						
物理Ⅴ	3前			1			○			1							
物理Ⅵ	3後			1			○			1							

	化学Ⅰ	1前			1	○			1							
	化学Ⅱ	1後			1	○			1							
	化学Ⅲ	2前			1	○								1		
	化学Ⅳ	2後			1	○								1		
	ライフサイエンス・アースサイエンス	1後			1	○								2	オムニハス・共同(一部)	
	情報リテラシー	1前			1	○			1							
	俯瞰学	2前			1	○			1					1	共同	
	プロジェクトデザイン入門	1前			2		○		2	2				1	オムニハス・共同(一部)	
	インキュベーションワークⅠ	1後			1		○		1					1	共同	
	インキュベーションワークⅡ	2通			2		○		1							
	インキュベーションワークⅢ	3通			2		○		1							
	第二外国語Ⅰ	5前			2	○								1	☆	
	第二外国語Ⅱ	5後			2	○								1	☆	
	物理科学	4前			2	○			1	2					☆共同	
	インキュベーションワークⅣ	4通			2		○		1							
	地域実践演習	4通			4		○		1							
	AI基礎技術演習	1～5前・後			1		○			1						
	特別一般講義A	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義B	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義C	1～5前・後			1	○										
	特別一般講義D	1～5前・後			1	○										
	小計(74科目)	—	—	0	102	0	—		20	21	0	12	0	29		
専門科目	工学総合演習Ⅰ	4後			2		○		1					1	共同	
	工学総合演習Ⅱ	5前			2		○		1					1	共同	
	卒業研究	5通		10				○	5	2		1				
	応用数学	4前			1	○								1		
	情報処理Ⅰ	4前			1	○				1						
	CAD基礎	3後			1	○			1							
	CAD・CGⅠ	4前			1	○			1							
	CAD・CGⅡ	4後			1	○				1						
	建築設計製図Ⅰ	1後			1		○					1				
	建築設計製図Ⅱ	2通			4		○			1		1			オムニハス・共同(一部)	
	建築設計製図Ⅲ	3通			4		○		1					2	オムニハス・共同(一部)	
	建築設計製図Ⅳ	4前			2		○		1					2	オムニハス・共同(一部)	
	ものづくり実習	1前			1			○		1						
	造形Ⅰ	1後			1	○			1					1	共同	
	造形Ⅱ	2後			1	○				1						
	デザイン基礎	3前			1	○				1						
	建築史Ⅰ	3前			1	○								1		
	建築史Ⅱ	3後			1	○								1		
	建築史Ⅲ	4前			2	○								1	☆	
	建築意匠	4後			2	○				1					☆	
	建築学入門	1前			1	○				1						
	建築計画Ⅰ	2前			1	○								1		
	建築計画Ⅱ	3前			1	○								1		
	建築計画Ⅲ	4前			2	○								1	☆	
	福祉住環境	3前			1	○						1				
	都市計画	4前			2	○			1						☆	
	建築環境工学Ⅰ	4前			2	○			1						☆	
	建築環境工学Ⅱ	4後			2	○			1						☆	
	建築設備Ⅰ	4後			2	○						1			☆	
	建築設備Ⅱ	5後			2	○						1			☆	
	建築構法Ⅰ	1後			1	○			1							
	建築構法Ⅱ	2前			1	○			1							
	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	3後			1	○			1							
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	4前			1	○			1							
	鉄筋コンクリート構造Ⅲ	4後			1	○			1							
	鋼構造Ⅰ	4前			1	○			1							
	鋼構造Ⅱ	4後			1	○			1							
	建築構造力学Ⅰ	2前			1	○			1							
	建築構造力学Ⅱ	2後			1	○			1							
	建築構造力学Ⅲ	3前			1	○			1							
	建築構造力学Ⅳ	3後			1	○				1						
	建築構造力学Ⅴ	4前			2	○				1					☆	
	建築構造力学演習	3後			1		○			1						
	建築工学実験	5前			1			○	1	1					共同	

建築防災工学	5後			2		○			1					1	☆
建築法規Ⅰ	5前			2		○			1					1	☆共同
建築法規Ⅱ	5後			2		○			1						☆
建築材料Ⅰ	3前			1		○			1						
建築材料Ⅱ	3後			1		○			1						
建築材料Ⅲ	5前			2		○							1	☆	
建築生産Ⅰ	5前			2		○			1					☆	
建築生産Ⅱ	5後			2		○			1				1	☆共同	
技術者資格演習	5後			1			○		1						
ゼミナール	4後			1		○				2					共同
建築学演習	3前			1			○			1					留学生に開設
情報処理Ⅱ	5後			1		○			1						
建築設計製図Ⅴ	5前			2			○		1					2	ホーム・ス・共同(一部)
インテリア計画	5後			2		○				1					☆
校外実習	4前			1				○		2					共同
特別専門講義A	1～5前・後			1		○									
特別専門講義B	1～5前・後			1		○									
特別専門講義C	1～5前・後			1		○									
特別専門講義D	1～5前・後			1		○									
小計(63科目)	—	—	14	84	0	—			36	20	0	6	0	19	
合計(137科目)	—	—	14	186	0	—			56	41	0	18	0	48	
学位又は称号	準学士(工学)			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等						
卒業要件：一般科目から75単位、専門科目から82単位を修得し、合計167単位以上修得すること。 履修指導方法：1年生には新入生ガイダンスにて教務主事より、2年生から5年生には新年度ガイダンスにて教務主事より履修方法について指導している。									1学年の学期区分				2期		
									1学期の授業期間				15週		
									1時限の授業の標準時間				90分		

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要					
(電気知能情報工学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一般 科目	選 択 必 修	現代文Ⅰ		(概要)日本語で書かれた文章を的確に理解する能力を養うため、小説、評論などの文章を読解する。また、自分の考えをまとめ表現できる思索力と言語能力を身につける。(到達目標) 1. 日本語で書かれた文章を的確に読解すること。 2. さまざまな文章を読解することで思索する力、豊かな感性を涵養すること。 3. 作品が書かれた時代(文学史)や作家に関する知識を身につけること。【授業形態:講義】	
一般 科目	選 択 必 修	現代文Ⅱ		(概要)日本語で書かれた文章を的確に理解する能力を養うため、小説、評論などの文章を読解する。また、自分の考えをまとめ表現できる思索力と言語能力を身につける。(到達目標) 1. 詩「I was born」ほかを読解・鑑賞する。詩情のありかを的確に捉える。表現に込められた感性を様々な角度から読みとる。作者や背景に対する知識を学び、作品を鑑賞できる素養を養う。【授業形態:講義】	
一般 科目	選 択 必 修	現代文Ⅲ		(概要)1年次での「現代文Ⅰ」「現代文Ⅱ」に引き続き、国語を的確に理解し、適切に表現できる基礎学力、日本語日本文化に関する見識を身につけるために、現代日本の思想や文化を代表する評論・小説・詩などを学習する。(到達目標) 1. 日本語で書かれた文章類(小説、評論、詩歌)を正しく読解すること。 2. さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけること。 3. 作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につける。【授業形態:講義】	
一般 科目	選 択 必 修	日本語表現力基礎		(概要)日本語を読む、書く、聞く、話すという四つの能力を身につけることは、人間力の形成のために必要である。それらの基礎能力、とりわけ読解能力、語彙能力と文章表現能力の向上を目指すことを目的とする。(到達目標) 1. 現代文の適切な読解ができること。 2. 漢字・仮名遣いなどが正しく使えること。 3. 慣用句・ことわざ・故事成語などが正しく使えること。 4. 韻文・文学史・文法の基礎的事項を身につける。【授業形態:講義】	
一般 科目	選 択 必 修	日本文学		(概要)本講義では、現代における小説・漫画・アニメーションの作品を取り上げ、作者や時代に関する背景や言説を組上に載せながら読み解いていく。その際、作品を分析するだけにとどまらず、同時代に在る者として作品を通いかなる思索が可能かを問題とする。こうした内容を通じて、受講生の自由な発想と、より高度な分析力を涵養することが、この授業の主たる目的である。(到達目標) 1. 自ら問いを立て、それを解決へと導くための方法・思考力を身につけ、それを実践できる。 2. 一つの事象や表現を、様々な角度から粘り強く分析する能力および習慣を身につける。 3. ストーリーのみならず、構造や細部、時代背景に着目しながら作品を読み解く技法を身につける。【授業形態:講義】	☆
一般 科目	選 択 必 修	古典文学Ⅰ		(概要)中学校での古典学習をふまえ、古典入門の授業とする。古文、漢文を理解するための基礎学力を身につけ、古人の思索を理解することで豊かな教養を涵養する。日本語日本文化および東アジアの文化に対する深い見識を養うことを目的とする。(到達目標) 古文基礎編その1、物語作品を読み、内容を理解し、鑑賞する。文法・語彙を学習し、古典の作品世界を理解する。用言の活用について学習する。文学史的知識を身につける。【授業形態:講義】	
一般 科目	選 択 必 修	古典文学Ⅱ		(概要)古典の授業を通して、日本文化と東アジアの文化に対する教養や心情を涵養する。各作品の読解により、古人に対する想像力を身に付け、文学表現に対する深い理解を学ぶ。古典読解は人間力育成のために必要である。(到達目標) 1. 随筆の古典的名作を読むことで、過去の言語文化に対する関心を深め、心情を読みとる能力を育てる。 2. 漢文の文法と訓読に習熟し、ことわざの語源について学び、日本語能力の基礎とする。【授業形態:講義】	

一般科目	選択必修	歴史総合Ⅰ		(概要) 江戸幕府の成立から第一次世界大戦までにおける世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。(到達目標) ①欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対して日本がどのように対応したかを説明できる。②19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	歴史総合Ⅱ		(概要) 第一次世界大戦後から現在にいたるまでの世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。(到達目標) ①第二次世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向を説明し、平和の意義について考察できる。②冷戦の展開からその終結にいたる日本及び世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	公共Ⅰ		(概要) 現代社会が抱える様々な問題と我々の生活との関わりを理解することは、社会で活躍する人材にとって基礎的な能力と言える。また、その問題に対し自らがどのように関わるのか、解決のためにはどのような能力を身に付ける必要があるのかを考察することを通じ、当事者意識を持ち社会問題の解決に取り組むことのできる人材の育成を目指す。(到達目標) SDGsとは何か、どんな課題に対し国際社会がどのように対応しようとしているのか理解し、説明することができる気候変動問題とは何か、またその政治との繋がりについて理解し、説明することができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	公共Ⅱ		(概要) 現代社会が抱える様々な問題と我々の生活との関わりを理解することは、社会で活躍する人材にとって基礎的な能力と言える。また、その問題に対し自らがどのように関わるのか、解決のためにはどのような能力を身に付ける必要があるのかを考察することを通じ、当事者意識を持ち社会問題の解決に取り組むことのできる人材の育成を目指す。(到達目標) 現代の経済システムについて理解し、説明することができる。金融の仕組みと市場経済におけるその働きについて理解し、説明することができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	地理総合		(概要) 基本的には教科書に沿って、地図・GISの基礎知識、世界各地の生活文化の多様性、自然災害・防災と地理的課題について学習する。(到達目標) ①地図やGISを利用する上で必要な基礎知識を説明できる。②世界の多様な自然環境(地形・気候・資源など)の概要を説明できる。そして自然環境が与える人々の暮らしへの影響、それによって生じる異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。③世界の多様な社会環境(言語・宗教、歴史的背景、産業の営みなど)の概要を説明できる。そして社会環境が与える人々の暮らしへの影響、それによって生じる異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	技術者倫理		(概要) 科学技術の進歩は我々の生活環境や社会に大きな影響を及ぼし、物質的な豊かさをもたらした一方で様々な問題も引き起こしている。近年科学技術の発展を背景とする様々な事故や不祥事が表面化するにつれ、技術者自身の責任や判断に対する自覚が求められるようになってきた。そこで、具体的事例をもとに、技術者技術者が直面する倫理的問題について深く理解し、倫理的判断を常に意識し実行することが出来る技術者の育成を目的とする。(到達目標) 1. 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。2. 説明責任、製造物責任、リスク評価など、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。3. 科学技術が自然環境に及ぼす影響を理解し、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。4. 技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。【授業形態：講義】	☆

一般科目	選択必修	英語Ⅰ		(概要) 言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。身近な話題についての英語を聞いて、知らない単語は意味を推測しながら、情報や考えなどの概要を理解できることを目的とする。 (到達目標) 1. 説明文や物語文などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細を正確にとらえることができる。2. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要を正確にとらえることができる。3. コミュニケーションの基礎となる語彙や文法等の知識を身につけ、正確に理解し、適切に表現することができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	英語Ⅱ		(概要) 言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)を向上させる。テキストの音読と精読を通して、読解力の育成をはかるとともに、テキストに取り上げられている内容に関連した語彙や表現を身に付けることを目的とする。(到達目標) 1. 教科書の新出語句や重要語句を覚え、使うことができる。2. 教科書の文法を理解し、使うことができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	英語Ⅲ		(概要) 言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)のうち、特に「読む」および「聞く」を重点的に向上させることを目的とする。英語ⅢおよびⅣでは、「英文の構造」「段落の構成」「英文の論理展開」を意識しながら読み、未知語の推測や文法・構文の知識を駆使して内容を理解することが求められる。教科書の音読と精読を通して読解力の育成を図るとともに、リスニング演習や速読演習をととして語彙や表現を身につけることを目的とする。(到達目標) 1. 「英文の構造」「段落の構成」「英文の論理展開」などを意識しながら、まとまった英文を整理して理解することができる。2. 初見の英文でも、未知語の推測や文法・構文の知識を駆使して内容を理解することができる。3. 英語で聴いた内容を理解し、正確かつ適切に回答することができる。4. 副教材(『MEW Exercise Book Expansion 1400』)の語句を覚え、正確かつ適切に使うことができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	英語Ⅳ		(概要) 言語運用の4技能(読む・書く・聞く・話す)のうち、特に「読む」および「聞く」を重点的に向上させることを目的とする。英語ⅢおよびⅣでは、「英文の構造」「段落の構成」「英文の論理展開」を意識しながら読み、未知語の推測や文法・構文の知識を駆使して内容を理解することが求められる。教科書の音読と精読を通して読解力の育成を図るとともに、リスニング演習や速読演習をととして語彙や表現を身につけることを目的とする。(到達目標) 1. 「英文の構造」「段落の構成」「英文の論理展開」などを意識しながら、まとまった英文を整理して理解することができる。2. 初見の英文でも、未知語の推測や文法・構文の知識を駆使して内容を理解することができる。3. 英語で聴いた内容を理解し、正確かつ適切に回答することができる。4. 副教材(『MEW Exercise Book Expansion 1400』)の語句を覚え、正確かつ適切に使うことができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	英語Ⅴ		(概要) TOEIC®のスコアアップを目的とする演習中心の授業である。単語帳とワークブック形式のテキストを使用し、TOEIC®テストに頻出の語句、問題形式、出題内容、スコアアップのコツ(ストラテジー)等を入門～初級レベルで網羅的に学習し、今後のTOEIC®学習に役立つ基礎知識を有することを目的とする。演習を通じてコツをつかみ、主体的にTOEICのスコアアップが目指せるよう、その見通しを立てるべく授業を行う。理工系英語の基礎となる、算数および理科の事項について、英語で内容を理解し、適切に表現する基礎を養う。(到達目標) 1. TOEIC®の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握しながら、リスニング問題に正確に回答することができる。2. TOEIC®に頻出する語彙や表現、文法構造を理解し、リーディング問題に正確に回答することができる。3. 理工系英語の基礎的な事項を理解し、適切に表現することができる。【授業形態：講義】	

一般科目	選択必修	英語Ⅵ		(概要) TOEICのスコアアップを目的とする演習中心の授業である。単語帳とワークブック形式のテキストを使用し、TOEICテストに頻出の語句、問題形式、出題内容、スコアアップのコツ(ストラテジー)等を入門～初級レベルで網羅的に学習し、今後のTOEIC学習に役立つ基礎知識を有することを目的とする。演習を通じてコツをつかみ、主体的にTOEICのスコアアップが目指せるよう、その見通しを立てるべく授業を行う。理工系英語の基礎となる、算数および理科の事項について、英語で内容を理解し、適切に表現する基礎を養う。(到達目標) 1. TOEICの出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握しながら、リスニングセクションの問題に正確に回答することができる。2. TOEICに頻出する語彙や表現、文法構造を理解し、リーディングセクションの問題に正確に回答することができる。3. 理工系英語の基礎的な事項を理解し、適切に表現することができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	英語Ⅶ		(概要) TOEIC公式問題の演習を通して、TOEICテストへの対応力を高めること(基本的な読解力・聴解力の養成)を目的とする。また、ALC NetAcademyを活用することにより、TOEICテストへのさらなる対応力強化を目指す。(到達目標) 1. リスニング演習によって、テキストで扱われるリスニング問題に対応できるようになること。2. リーディング演習によって、テキストで扱われるリーディング問題に対応できるようになること。【授業形態: 講義】	☆
一般科目	選択必修	英語Ⅷ		(概要) TOEIC公式問題の演習を通して、TOEICテストへの対応力を高めること(基本的な読解力・聴解力の養成)を目的とする。また、ALC NetAcademyを活用することにより、TOEICテストへのさらなる対応力強化を目指す。(到達目標) 1. リスニング演習によって、テキストで扱われるリスニング問題に対応できるようになること。2. リーディング演習によって、テキストで扱われるリーディング問題に対応できるようになること。【授業形態: 講義】	☆
一般科目	選択必修	英語Ⅸ		(概要) 本授業はビジネス・ライティング(英文Eメール)に関するものである。将来、ビジネス現場において英語を用いて次のようなメールのやり取りができるようになることを目標とする。1) 面会の手配。2) アドバイスや提案。3) 依頼。4) 苦情。5) 同僚への感謝。6) 商品の注文等。eラーニング教材『Really English 実践英文ビジネスライティング』を用いて、ビジネス現場に即した英文メールの書き方を身につける。(到達目標) 1. 日常的・社会的な話題に関する自分の感想や考え等を整理し、それらを伝える文章を効果的に書くことができる。2. 日常的・社会的な話題に関する自分の意見や考え等を伝えるために必要な語彙・表現を身につけ、適切に使用することができる。3. ライティングのジャンルに応じた文章の構成を理解し、その知識を活かして文章を効果的に書くことができる。【授業形態: 講義】	☆
一般科目	選択必修	英語表現Ⅰ		(概要) 中学校で学習した英文法内容を基盤とし、講義や演習をとって、基礎的な英語表現力を身につける。(到達目標) 講義や演習を通じて、英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	英語表現Ⅱ		(概要) 中学校で学習した英文法内容を基盤とし、講義や演習をとって、基礎的な英語表現力を身につける。(到達目標) 新出語句・表現を覚え、英文の中で適切に使うことができる。英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。【授業形態: 講義】	

一般科目	選択必修	英語表現Ⅲ		(概要) 与えられたトピックについて、プレゼンテーションを作成する。実際にプレゼンテーションを行うことにより、スピーキング能力の向上とプレゼンテーションを行う上で必要な技能を身につける。英語表現Ⅰ、Ⅱで習得した文法や語法の知識を活用し、適切かつ正確に運用できるよう問題演習を行う。(到達目標) 1. 与えられたトピックについて、プレゼンテーションを作成できる。2. 実際にプレゼンテーションを行うことにより、スピーキング能力の向上とプレゼンテーションを行う上で必要な技能を身につけることができる。3. 既習の文法や語法を活用しながら、適切かつ正確に運用することができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	英語表現Ⅳ		(概要) 与えられたトピックについて、プレゼンテーションを作成する。実際にプレゼンテーションを行うことにより、スピーキング能力の向上とプレゼンテーションを行う上で必要な技能を身につける。英語表現Ⅰ、Ⅱで習得した文法や語法の知識を活用し、適切かつ正確に運用できるよう問題演習を行う。(到達目標) 1. 与えられたトピックについて、プレゼンテーションを作成できる。2. 実際にプレゼンテーションを行うことにより、スピーキング能力の向上とプレゼンテーションを行う上で必要な技能を身につけることができる。3. 既習の文法や語法を活用しながら、適切かつ正確に運用することができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	芸術		(概要) 教員が提供する課題に対して、教員からの情報提供、教員との問答、グループワーク、課題制作、発表といった体験を通じて、理解と能力を養う。(到達目標) 1. 見る探究(興味関心、好奇心、疑問に従い、自分なりのものの見方を探究すること)の重要性や面白さについて認識している。2. 美意識(直感を裏付ける経験や自身の真・美・善)について意識し、言語化する習慣を身につけている。3. アート思考のフレームワーク(興味関心の延長にある個人的に理想的な未来と現状とのギャップを埋めるべくアクションする)について理解している。【授業形態：講義】	共同
一般科目	選択必修	保健		(概要) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。(到達目標) 1. 現代の健康のとらえ方について理解でき、自らの健康にかかわる意志決定・行動選択ができる。2. 生活習慣病の予防について理解できる。3. 喫煙・飲酒が健康に及ぼす影響とその要因・対策について理解できる。4. 薬物の種類とその健康への影響について理解できる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	体育Ⅰ		(概要) 新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。協調性と安全・確実・敏速に行動ができるような態度を養う。ゲームに必要な個人的技能や集団的スキルを高め、技能の程度に応じた作戦を工夫してゲームができるようにするとともに、得点や勝敗を競う過程や結果に喜びや楽しさを味わう。(到達目標) 1. 自分の体力レベルを把握できる。2. バレーボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。3. バレーボールの集団的スキルをゲームで生かすことができる。4. バレーボールのゲームを企画・運営ができる。5. バasketボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。6. バasketボールの集団的スキルをゲームで生かすことができる。7. バasketボールのゲームを企画・運営ができる。【授業形態：実技(実験・実習)】	

一般科目	選択必修	体育Ⅱ		(概要) 新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。協調性と安全・確実・敏速に行動ができるような態度を養う。生涯にわたって楽しめるスポーツのルールを理解し、技能や体力水準の高低に関わらず、仲間と協力しながらゲームの実践を楽しむ。また、ゲームに必要な個人的技能や集団的スキルを高め、技能の程度に応じた作戦を工夫してゲームができるようにするとともに、得点や勝敗を競う過程や結果に喜びや楽しさを味わう。(到達目標) 1. 自分の体力レベルを把握できる。2. ソフトボールの個人的技能をゲームで生かすことができる。3. グラウンドゴルフの個人的技能をゲームで生かすことができる。4. バレーボールの集団的スキルをゲームで生かすことができる。5. バレーボールのゲームを企画・運営ができる。6. バスケットボールの集団的スキルをゲームで生かすことができる。7. バスケットボールのゲームを企画・運営ができる。【授業形態：実技(実験・実習)】	
一般科目	選択必修	体育Ⅲ		(概要) 新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。技能や経験に応じてチーム編成をし、チームの役割を自覚し、自主的・計画的に練習やゲームを行う。また、ルールを守り全力でプレーし、審判の判定に従い、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。場所の安全を確かめ、健康・安全に留意して、練習やゲームができるようにする。(到達目標) 1. 自分の体力レベルを把握できる。2. ソフトテニスの基礎技能をゲームで生かすことができる。3. ソフトテニスのゲームを企画・運営ができる。4. サッカーの個人的技能をゲームで生かすことができる。5. サッカーの集団的スキルをゲームで生かすことができる。6. サッカーのゲームを企画・運営ができる。【授業形態：実技(実験・実習)】	
一般科目	選択必修	体育Ⅳ		(概要) 新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。基本的な個人技能を高めるとともに、ダブルスゲームにおいてはパートナーの特徴を生かした連携パターンを工夫し、相手の動きや打球の特徴に対応して作戦を考える能力を養う。また、生涯にわたってスポーツを親しむという観点からテニスの特性や、効果的な練習方法、ゲームの企画・運営方法・審判法など理解させる。(到達目標) 1. 自分の体力レベルを把握できる。2. テニスの基礎技能をゲームで生かすことができる。3. テニスのゲームを企画・運営ができる。【授業形態：実技(実験・実習)】	
一般科目	選択必修	体育Ⅴ		(概要) 新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。生涯にわたってスポーツを親しむという観点からゴルフ、バドミントンを学習する。基本的な個人技能を高めるとともに、効果的な練習方法、エチケットマナー、ゲームの企画や運営方法、審判法などを理解させる。(到達目標) 1. 自分の体力レベルを把握できる。2. ゴルフを行う上でのエチケットやマナーを理解できる。3. ピッチングの基本的な打ち方ができる。4. 方向・距離感覚を修得し、ある程度狙ったところに打つことができる。5. バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。6. バドミントン(ダブルス)の集団的スキルをゲームで生かすことができる。7. バドミントンのゲームを企画・運営ができる。【授業形態：実技(実験・実習)】	
一般科目	選択必修	日本語・日本事情Ⅰ		(概要) 一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必要な論文作成能力を養う。(到達目標) 1. 日本社会、文化、生活について、座学及びフィールドワークを通じて、詳細に理解できること。2. 専門科目にも応用できる幅広い視野、知識を持てるよう、日本語を通じて学習能力をより高めることができること。3. 正しく理論的な文章を書く力、編集能力を身につけることができること。【授業形態：講義】	留学生に開設

一般科目	選択必修	日本語・日本事情Ⅱ		(概要) 一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必須な論文作成能力を養う。(到達目標) 1. 日本社会、文化、生活について、座学及びフィールドワークを通じて、詳細に理解できること。2. 専門科目にも応用できる幅広い視野、知識を持てるよう、日本語を通じて学習能力をより高めることができること。3. 正しく理論的な文章を書く力、編集能力を身につけることができること。【授業形態：講義】	留学生に開設
一般科目	選択必修	日本語・日本事情Ⅲ		(概要) 一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必須な論文作成能力を養う。(到達目標) 1. 日本社会、文化、生活について、座学及びフィールドワークを通じて、詳細に理解できること。2. 専門科目にも応用できる幅広い視野、知識を持てるよう、日本語を通じて学習能力をより高めることができること。3. 正しく理論的な文章を書く力、編集能力を身につけることができること。【授業形態：講義】	留学生に開設
一般科目	選択必修	基礎数学AⅠ		(概要) 中学校の数学をもとにして、高専数学のための基礎づくりを目的としています。整式の計算から入り、方程式や不等式、2次関数などを学習し、数学的な考え方や計算技術などの習得を目指します。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につけるものです。(到達目標) 1. いろいろな数と式について四則計算ができること。2. いろいろな方程式、不等式が解け、また証明ができる。3. 2次関数の性質を理解し、グラフがかけること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	基礎数学AⅡ		(概要) 基礎数学AⅠに続き、高専数学のための基礎づくりを目的としている。べき関数、分数関数、無理関数、逆関数、指数関数、対数関数などを学習し、数学的な考え方や計算技術などの習得を目指す。(到達目標) 1. べき関数、分数関数、無理関数などのグラフがかけること。2. 指数関数、対数関数の性質を理解し、グラフがかけること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	数学AⅠ		(概要) まず三角関数について学び、1変数関数について微分法と積分法の基本的概念を明確にし、いろいろな関数の導関数および積分の計算を学習する。本授業は学力の向上に必要である。(到達目標) 1. 三角関数を理解し、加法定理などを利用できること。2. 極限の計算ができ、関数の微分ができること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	数学AⅡ		(概要) 1変数関数について微分法と積分法の基本的概念を明確にし、いろいろな関数の導関数および積分の計算を学習する。また、応用問題として極値や接線を求める。本授業は学力の向上に必要である。(到達目標) 1. 微分法の応用として、接線、不定形の極限、関数の極値、変曲点などが計算できること。2. 積分法の概念を理解し、不定積分、定積分が計算できること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	数学AⅢ		(概要) 2年次で学習した「数学AⅡ」を基礎にして、微分積分の発展的な内容を学ぶ。主にマクローリン展開、2変数関数の偏微分の計算、1階・2階線形微分方程式について学習する。本授業では学力を身につけることができる。(到達目標) 1. 媒介変数表示・極座標による図形が説明できて、その面積や曲線の長さが計算できること。2. 関数のマクローリン展開ができること。3. 1階・2階線形微分方程式が解けること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	数学AⅣ		(概要) 2年次で学習した「数学AⅡ」を基礎にして、微分積分の発展的な内容を学ぶ。主に2変数関数の偏微分を用いた応用問題、重積分とそれらの応用について学習する。本授業では学力を身につけることができる。(到達目標) 1. 2変数関数の偏微分が計算できて、その応用である接平面の方程式や極大・極小問題が解けること。2. 2重積分の定義を理解し、累次積分になおして計算ができるようになること。【授業形態：講義】	

一般科目	選択必修	基礎数学B I		(概要) 中学校で学んだ数学に続いて平面図形(直線や2次曲線)の方程式を学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。(到達目標) 1. 座標平面における点と直線、2直線の関係を理解し、問題が解ける。2. 2次曲線の問題が解ける。不等式の表す領域が図示できる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	基礎数学B II		(概要) 前期で学んだ基礎数学BIに続き、場合の数、数列に関することなどを学ぶ。就職・進学に必ず必要となる基礎学力を身につける。(到達目標) 1. 場合の数が計算できる。2. 数列の一般項、和が計算できる。およびそれらにすることができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	数学B I		(概要) まず空間ベクトルを学び、基本的な空間図形をベクトル方程式を用いて扱うことを学習します。次に、行列という概念を導入することにより連立一次方程式を新しい視点から解く方法を学びます。また、その途中で階数、逆行列というものも学びます。(到達目標) 1. 空間内の直線・平面・球のベクトル方程式を求めることができる。2. 行列の定義を理解し、行列の基本的な演算ができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	数学B II		(概要) 専門科目を学ぶ上で必要な行列の理論である「行列式」、「行列式の応用」、「線形変換」、「固有値」、「対角化」について学習する。(到達目標) 1. 行列式の性質を理解し、高次の行列式の値を求めることができる。2. 線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。3. 合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	基礎数学C		(概要) 基礎数学A Iに続き、高専数学のための基礎づくりを目的としている。三角比、力学などで重要なベクトルなどを学習し、数学的な考え方や計算技術などの習得を目指す。(到達目標) 1. 三角比を理解し、その応用ができること。2. ベクトル定義を理解し、ベクトルの基本的な計算ができること。3. ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	物理 I		(概要) 物理は「今起っていることを説明する」のが目的の学問です。この科目では、高専で学ぶ物理分野のうち力学について扱います。力学に関係する基本的な概念および法則を理解し、自然界のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ、自分で考えられるようになることを目的とします。(到達目標) 等速直線運動・変位・速度について説明ができ、計算ができる。ベクトルについて説明ができ、計算ができる。【授業形態: 講義】	
一般科目	選択必修	物理 II		(概要) 物理は「今起っていることを説明する」のが目的の学問です。この科目では、物理 Iに引き続き、高専で学ぶ物理分野のうち力学について扱います。力学に関係する基本的な概念および法則を理解し、自然界のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ、自分で考えられるようになることを目的とします。(到達目標) 作用・反作用。慣性の法則および運動の法則について説明できる。運動の法則を運動方程式で表すことができる。【授業形態: 講義】	

一般科目	選択必修	物理Ⅲ		(概要) この科目では、1年生から引き続き力学分野を扱い、運動量、円運動と万有引力について学びます。 呉高専で学習する「力学」は、物理Ⅰ・Ⅱ(1年生)からこの物理Ⅲ(2年生前期)までが高校物理の範囲であり、さらに物理Ⅳ(3年生後期)では大学物理に発展していきます。 力学に関する基本的な概念および法則を理解し、自然界のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ、自分で考えられるようになることを目的とします。(到達目標) 力学についての基本的な概念及び法則を理解し、自然のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ自分で考えられるようになる。運動量の保存を説明でき、関係する計算ができる。反発係数を説明でき、関係する計算ができる。等速円運動をする物体の角速度や速度、周期、回転数、加速度に関する計算ができる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	物理Ⅳ		(概要) 物理は「今起っていることを説明する」ことが目的の学問です。この科目では「波と音・光」について扱います。波と音・光に関する基本的な概念および法則を理解し、自然界のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ、自分で考えられるようになることを目的とします。(到達目標) 波に関する基本的な概念及び法則を理解し、自然のさまざまな物理現象と基本的な概念を結びつけ自分で考えられるようになる。振動の伝搬から波を正しく説明でき、関係する量やグラフの意味を説明できる。正弦波の式を求めることができる。正弦波の式から、波の特徴を説明できる。横波と縦波の違いを説明できる。縦波を疎密波として説明できる。波の重ね合わせの原理と波の独立性について説明できる。定在波・進行波について説明できる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	物理Ⅴ		(概要) 物理現象とそれに関する概念や法則について、「知り」、「理解し」、「活用できる」ようになることを目的とする。(到達目標) 1. 全ての学習項目について、知識を身につけ関連する計算ができるようになる。2. 全ての学習項目について、現象及びそれを表す式を理解して、説明ができるようになる。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	物理Ⅵ		(概要) 物理現象とそれに関する概念や法則について、「知り」、「理解し」、「活用できる」ようになることを目的とする。1・2年で学んだ内容も含め、基礎的・汎用的な物理分野についての学習の集大成とする授業である。(到達目標) 物理の基本的・汎用的内容についての知識・理解を、他の場面で使えるようにする。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	化学Ⅰ		(概要) 物理量の概念、計算方法等化学の基礎を理解させる。また、物質の性質はその組成と構造によって決まることから化学結合を理解し、日常で起こる様々な化学変化や現象を物質の性質から考える。本授業は進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。(到達目標) 1. 物質の構造、性質及びその変化を理解すること。2. 化学の基本的な計算ができること。3. 溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得すること。4. 化学反応式の意味を理解し、計算ができること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	化学Ⅱ		(概要) 物理量の概念、計算方法等化学の基礎を理解させる。また、物質の性質はその組成と構造によって決まることから化学結合を理解し、日常で起こる様々な化学変化や現象を物質の性質から考える。本授業は進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。(到達目標) 1. 物質の構造、性質及びその変化を理解すること。2. 化学の基本的な計算ができること。3. 溶液調整や実験器具の使い方など基本的な実験操作を習得すること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	化学Ⅲ		(概要) 物質の性質や構造を考える際に、原子間の電子の動きが重要な意味を持っている。電子の動きに注目して化学結合や物質間の反応を理解することを目的とする。本授業は、様々な材料に関する基礎的知識とそれを生かすことのできる能力を養うと共に、進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。(到達目標) 希薄溶液の性質を理解し、計算ができること。酸化還元を電子の授受から理解すること。【授業形態：講義】	

一般科目	選択必修	化学Ⅳ		（概要）物質の性質や構造を考える際に、原子間の電子の動きが重要な意味を持っている。電子の動きに注目して化学結合や物質間の反応を理解することを目的とする。本授業は、様々な材料に関する基礎的知識とそれを生かすことのできる能力を養うと共に、進学等に関連し、学力向上を身につけることができる。（到達目標）１．酸化還元反応の応用と電池の仕組みについて理解すること。２．酸化還元反応の電気分解への応用ができる。３．化学反応における熱の出入りについて理解し、熱化学方程式について計算できること。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	ライフサイエンス・アースサイエンス		（概要）ライフサイエンス・アースサイエンスでは、生物を中心とした地球環境を理解し、人間と自然との関係を統合的に考える力を養うことを目標とする。これらの知識を得る過程で、科学的な考え方や人間社会を快適にする技術への応用について考え、自らの専門分野に関係する課題に対処できるようにする。（到達目標）１．地球環境と生命科学の基礎について詳細に理解できる。２．地球の歴史と生物進化の基礎について詳細に理解できる。３．生態系と地球環境を詳細に理解できる。４．現代社会における生物と地学を詳細に理解できる。【授業形態：講義】 （オムニバス方式／全15回） （0 宮崎 翔平／7回） ライフサイエンス：講義6回+答案返し・解説1回（計7回） 生物の共通性と多様性の基礎、生命の起源と生物進化、生態系とバイオーム、ヒトのシステム、私たちの生活とのかかわり、まとめと課題解説についての内容を担当する。 （0 佐々木 佑二郎／7回） アースサイエンス：講義6回+答案返し・解説1回（計7回） 惑星としての地球、活動する地球、移り変わる地球、大気と海洋、地球の環境、宇宙の構成についての内容を担当する。 （0 宮崎 翔平・0 佐々木 佑二郎／1回）（共同） 授業計画と授業概要についてのオリエンテーションを共同で担当する。	オムニバス方式 ・共同（一部）
一般科目	選択必修	情報リテラシー		（概要）現代社会においてパソコンを使用するの文書作成や表計算、インターネットや電子メールを使う能力は必要不可欠である。本授業ではパソコンを操作するために必要な基礎知識およびワープロ等の操作を学習する。また情報を処理・活用する上で重要な情報倫理・セキュリティも学ぶ。本授業は進学と就職に関連する。（到達目標）１．パソコンの基本的操作を行うことができる。２．Word、Excel、PowerPointの基本的操作をすることができ、簡単な文章、表、グラフやプレゼンテーション資料を作成できる。３．情報技術やデータ、データベースに関する基礎的な知識と、それらの活用方法を理解し、情報の収集、加工、発信を行うことができる。４．情報の種類に応じた適切なアプリケーションの選択や表現方法に関する理解があり、必要十分な情報の加工、発信を行うことができる。５．ネットワークや通信技術に関する基礎的な理解を持ち、一般的なネットワークデバイスに関する理解はできている。【授業形態：講義】	
一般科目	選択必修	俯瞰学		（概要）俯瞰学では、後者の広い意味での”俯瞰”について体験的に学ぶ機会を提供します。現代社会では、”俯瞰”する必要性が高まっています。未曾有でかつ地球規模の問題が次々に起こり、解決するためには、一人一人が自分なりの視点から問題と向き合いつつ、自分とは異なる文化や価値観をもった他者と対話し、協働していくことが必要不可欠だからです。この授業では、仲間たちと対話しながら協働する課題を通じて、学生一人一人が、自己理解と他者理解を深め、過去-現在-未来の自己と社会の関係性を把握し、問題を協力的に解決するといった”俯瞰”スキルの習得を目指します。（到達目標）１．問題や課題の構造を多角視することができる。２．エンパシーの必要性を認識できる。３．立場や考え方の異なる他者と対話することができる。４．自己の体験を振り返り、経験に編集することができる。【授業形態：講義】	共同

一般科目	選択必修	プロジェクトデザイン入門	(概要) グループワークを中心に、他人とコミュニケーション取りながら、自己に関することを表現する体験を行う。また、実験・実習によって、所属学科および他学科の特徴を学ぶ。(到達目標) 1. 高専で学ぶ専門科目の概要と特徴を理解する。2. コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力を必要とする取り組みを経験し、その必要性を認識する。【授業形態：演習】 (オムニバス方式／全15回) (0 林 和彦、0 谷村 仰仕／9回) 第1週から第8週までの初回オリエンテーションを含む、自己分析や国際関係と技術者の関係のグループワークと第15週のまとめを担当。 (0 上寺 哲也、0 服部 佑哉、0 堀口 至、0 谷川 大輔、0 松野 一成、0 安 箱敏、0 三枝 玄希／6回) 第9週から第14週までを担当。上寺 哲也が機械工学に関する専門科目、服部 佑哉が電気情報工学に関する専門科目、堀口 至と谷川 大輔が環境都市工学に関する専門科目、松野 一成、安 箱敏、三枝 玄希が建築学に関する専門科目を3週ずつ2回のグループに分けて他学科の学生を対象に演習を行う。	オムニバス方式 ・共同 (一部)
一般科目	選択必修	インキュベーションワークⅠ	(概要) 学生が自ら関心や興味のあることについてテーマを立ち上げて、メンバーを募集して、活動してプロジェクトにする。ここで言うプロジェクトとは、公序良俗に反しない範囲においてやってみないとどうなるかわからないことをまずはやってみてその結果を振り返って改善してまたやってみてを繰り返して、プロジェクトの意義を明確化して、その意義を社会に問う活動のことを意味する。学生はプロジェクトの活動を通して、主体性についての自己理解を深める。自己理解を深めるために、どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して活動をして、その活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返り、その振り返りで得た知見を発信し且つ他人の発信した内容を共有して、自分の認識を相対化する活動をする。(到達目標) 主体性について、プロジェクトによる体験を通して、自己理解を深めることも目的とする。1. どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して実施する。2. その活動が自分にとってどのような経験であったかを自覚する。3. その自覚から、次の行動を考えて判断して決定して実施する。4. プロジェクトの活動において協働の活動を行う。5. 体験から得られた知見を発信して、他人と共有して、自己理解を深める。【授業形態：演習】	共同
一般科目	選択必修	インキュベーションワークⅡ	(概要) 学生が自ら関心や興味のあることについてテーマを立ち上げて、メンバーを募集して、活動してプロジェクトにする。ここで言うプロジェクトとは、公序良俗に反しない範囲においてやってみないとどうなるかわからないことをまずはやってみてその結果を振り返って改善してまたやってみてを繰り返して、プロジェクトの意義を明確化して、その意義を社会に問う活動のことを意味する。学生はプロジェクトの活動を通して、主体性についての自己理解を深める。自己理解を深めるために、どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して活動をして、その活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返り、その振り返りで得た知見を発信し且つ他人の発信した内容を共有して、自分の認識を相対化する活動をする。(到達目標) 主体性について、プロジェクトによる体験を通して、自己理解を深めることも目的とする。1. どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して実施する。2. その活動が自分にとってどのような経験であったかを自覚する。3. その自覚から、次の行動を考えて判断して決定して実施する。4. プロジェクトの活動において協働の活動を行う。5. 1年生からの1年半の体験から得られた知見を発信して、他人と共有して、自己理解を深める。【授業形態：演習】	

一般科目	選択必修	インキュベーションワークⅢ		(概要) 学生が自ら関心や興味のあることについてテーマを立ち上げて、メンバーを募集して、活動してプロジェクトにする。ここで言うプロジェクトとは、公序良俗に反しない範囲においてやってみないとどうなるかわからないことをまずはやってみてその結果を振り返って改善してまたやってみてを繰り返して、プロジェクトの意義を明確化して、その意義を社会に問う活動のことを意味する。学生はプロジェクトの活動を通して、主体性についての自己理解を深める。自己理解を深めるために、どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して活動をして、その活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返り、その振り返りで得た知見を発信し且つ他人の発信した内容を共有して、自分の認識を相対化する活動をする。(到達目標) 主体性について、プロジェクトによる体験を通して、自己理解を深めることも目的とする。1. どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して実施する。2. その活動が自分にとってどのような経験であったかを自覚する。3. その自覚から、次の行動を考えて判断して決定して実施する。4. プロジェクトの活動において協働の活動を行う。5. 1年生からの2年半の体験から得られた知見を発信して、他人と共有して、自己理解を深める。【授業形態：演習】	
一般科目	選択	第二外国語Ⅰ		(概要) 中国語をマスターし、中国の地理・社会・文化が理解できるよう、必要な中国語の発音と簡単な例文を学生に身につけさせる。(到達目標) 1. 中国語の発音システムを系統的に身につけさせる。2. 中国の地理・社会・文化について理解させる。3. 簡単なフレーズを正確に聞き取らせ、基本文型を適切に理解させる。【授業形態：講義】	☆
一般科目	選択	第二外国語Ⅱ		(概要) 中国語をマスターし、中国の地理・社会・文化が理解できるよう、必要な中国語の発音と簡単な例文を学生に身につけさせる。(到達目標) 1. 中国語の発音システムを系統的に身につけさせる。2. 中国の地理・社会・文化について理解させる。3. 簡単なフレーズを正確に聞き取らせ、基本文型を適切に理解させる。【授業形態：講義】	☆
一般科目	選択	物理科学		(概要) 高専学生として興味を持ち、それについて知識・理解をしてもらいたいテーマを選び授業を行う。(到達目標) このテーマに関する知識・理解を、他の場面で使えるようになる。【授業形態：講義】	☆共同
一般科目	選択	インキュベーションワークⅣ		(概要) 学生が自ら関心や興味のあることについてテーマを立ち上げて、メンバーを募集して、活動してプロジェクトにする。ここで言うプロジェクトとは、公序良俗に反しない範囲においてやってみないとどうなるかわからないことをまずはやってみてその結果を振り返って改善してまたやってみてを繰り返して、プロジェクトの意義を明確化して、その意義を社会に問う活動のことを意味する。学生はプロジェクトの活動を通して、主体性についての自己理解を深める。自己理解を深めるために、どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して活動をして、その活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返り、その振り返りで得た知見を発信し且つ他人の発信した内容を共有して、自分の認識を相対化する活動をする。更に、自分達が用いた諸々の方法的・教育的な成果から得られた知見について発信し、他人と共有して、プロジェクト改善に取り組む。(到達目標) 主体性について、プロジェクトによる体験を通して、自己理解を深めること、さらにそのプロジェクト方法の改善に取り組むことを目的とする。1. どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して実施する。2. その活動が自分にとってどのような経験であったかを自覚する。3. その自覚から、次の行動を考えて判断して決定して実施する。4. プロジェクトの活動において協働の活動を行う。5. 1年生からの3年半の体験から得られた知見を発信して、他人と共有して、自己理解を深める。6. 設定した課題や活動と社会の接点について考察をして実行に向けて検討する。【授業形態：演習】	

一般科目	選択	地域実践演習		(概要) 3年生までのインキュベーションワークの活動を踏まえて、専門分野に関連するプロジェクトに取り組む。学生はプロジェクトの活動を通して、専門分野における主体性についての自己理解を深める。自己理解を深めるために、どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して活動をして、その活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返り、その振り返りで得た知見を発信し且つ他人の発信した内容を共有して、自分の認識を相対化する活動をする。また、地域をフィールドした活動や地域と連携した活動を行う。(到達目標) プロジェクトによる体験を通して、専門分野における主体性の自己理解を深めることも目的とする。1. どのようなプロジェクトで何をするのかを、自分で考えて判断して決定して実施する。2. その活動が自分にとってどのような経験であったかを自覚する。3. その自覚から、次の行動を考えて判断して決定して実施する。4. プロジェクトの活動において協働の活動を行う。5. 体験から得られた知見を発信して、他人と共有して、自己理解を深める。6. 地域をフィールドした活動や地域と連携した活動を行う。【授業形態：演習】	
専門科目	必修	工学総合演習Ⅰ		(概要) 電気情報工学のものづくりを実践し、ものづくりの技術を身につける総合学習を行う。製作した成果は雑誌への投稿や、コンテストへ応募するなど学外で評価を受けることを目標にしているので、優れた完成度の高い作品を作らなければならない。(到達目標) 1. ものづくりに必要な知識を高める。2. 製作物の計画・設計を行う。3. 製作物の試験・評価を実施する技術を取得する。4. 実習成果の報告書作成技術を習得しプレゼンテーション能力を習得する。【授業形態：演習】	
専門科目	必修	工学総合演習Ⅱ		(概要) 電気情報工学のものづくりを実践し、ものづくりの技術を身につける総合学習を行う。製作した成果は雑誌への投稿や、コンテストへ応募するなど学外で評価を受けることを目標にしているので、優れた完成度の高い作品を作らなければならない。(到達目標) 1. ものづくりに必要な知識を高める。2. 製作物の計画・設計を行う。3. 製作物の試験・評価を実施する技術を取得する。4. 実習成果の報告書作成技術を習得しプレゼンテーション能力を習得する。【授業形態：演習】	
専門科目	必修	卒業研究		(概要) これまで学習した電気情報工学の専門知識を活用して、指導教員の専門分野の研究開発状況を学び、その専門分野の調査・研究を行い、知識をさらに深め独創力、創造力、研究開発能力および研究発表能力を養うことを目的とする。本授業は進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 電気情報工学の専門知識を深め、技術力、研究能力を高める。2. 報告書の作成技術を習得する。3. 研究成果のプレゼンテーション能力を習得する。【授業形態：実験】	
専門科目	選択必修	応用情報数学		(概要) 確率と統計についてその基本的な考え方を理解させ、確率とデータの整理および相関係数・回帰直線に関する様々な計算方法に習熟させることを目的とする。またできるだけ応用にも触れる。(到達目標) 1. 確率の加法定理、排反事象、余事象について理解し、確率の計算ができる。2. 条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象について理解し、確率の計算ができる。3. 確率変数と確率分布について理解し、二項分布と正規分布の性質や特徴を説明できる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	電気情報知能概論		(概要) 電気情報系のエンジニアを目指すにあたり、高専入学直後に習得が好ましい専門知識および技能について、可能な限り実習形式で体験学習する。具体的には、旧「電気製図」の科目内容や、電気一般知識、計測機器の使い方や基本原理について学習する。また、マイコンボードを使いながら電気・電子回路、センサの使い方やAI、プログラミングについて総合的に学習する。(到達目標) 1. 電気・情報に関する基礎的な専門用語・技術について説明ができる。2. 電気・情報に関して重要な数値を述べるができる。【授業形態：講義】	

専門科目	選択必修	情報電気数学Ⅰ		(概要) 電気情報工学は工学の諸分野の中でもとりわけ数学を利用することの多い分野である。本講義では3年次以上の電気情報工学の内容を理解するために必要な数学、複素数の基礎と複素関数について学習する。また数値計算ソフトウェア Scilab の利用方法も取り扱う。本授業は学力向上に必要であり、進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 複素数の基本的な計算ができる。2. ド・モアブルの定理やオイラーの公式を理解し、指数関数と三角関数の関係を理解する。3. W 平面の写像を求めることができる。4. 指数関数、対数関数、三角関数、双曲線関数、逆三角関数、ベキ乗を理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報電気数学Ⅱ		(概要) 電気情報工学は工学分野の中でもとりわけ数学を利用することが多い。本科目では、ベクトル解析の基礎的知識を身につける。(到達目標) 1. スカラー場とベクトル場の区別ができる。2. スカラー場の勾配・発散・回転が計算できる。3. ベクトル場の勾配・発散・回転が計算できる。4. 線積分の計算ができる。5. 面積分の計算ができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報電気数学Ⅲ		(概要) 電気情報工学は工学分野の中でもとりわけ数学を利用することが多い。本科目では、複素関数論の基礎的知識を身につける。(到達目標) 1. 複素関数の正則性を応用できる。2. コーシーの積分公式・グルサの定理が説明できる。3. 留数定理が応用できる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報電気数学Ⅳ		(概要) ラプラス変換およびフーリエ級数・フーリエ変換についてその基本的な考え方を理解させ、合わせてそれらの基礎的な計算方法に習熟させることを目的とする。さらに、時間があれば工学への応用にも触れ、道具として活用できるように配慮する。本授業は学力の向上に必要である。(到達目標) 1. 基本的な関数のラプラス変換を計算できる。2. ラプラス変換の性質を利用していろいろな関数のラプラス変換を計算できる。3. 逆ラプラス変換の計算ができる。4. ラプラス変換を使って常微分方程式の解を求められる。5. 簡単な関数のフーリエ級数の計算ができる。6. 簡単な関数の複素形フーリエ級数の計算ができる。7. 簡単な関数のフーリエ変換の計算ができる。8. たたみこみのフーリエ変換の計算ができる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	電気基礎Ⅰ		(概要) 電気工学の概論を扱う基礎科目である。この科目を通じて電気の基礎概念を理解し、数学や物理学が電気工学のどこに使われているかを習得する。ここでは電気回路における基礎的事項と直流回路について学習する。本授業は進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 電気工学に用いる指数計算や単位を理解する。2. 電気回路と基礎電気量を理解する。3. 回路要素の基本的性質について学ぶ。4. 直流回路網について理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気基礎Ⅱ		(概要) 電気工学の概論を扱う基礎科目である。この科目を通じて電気の基礎概念を理解し、数学や物理学が電気工学のどこに使われているかを習得する。ここでは直流回路、静電気学、静磁気および電流の作る磁気について学習する。本授業は進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 直流回路網について理解する。2. 直流回路網の基本定理について理解する。3. 直流回路網の諸定理について理解する。4. 電磁界の諸定理について理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気回路Ⅰ		(概要) 電気工学のあらゆる分野の基礎となる科目である。正弦波交流の基本を説明し、複素数やベクトルを用いた回路計算法に習熟させるため、交流回路の電圧、電流、電力の計算法等を例題・演習問題を中心に授業を進める。(到達目標) 1. 弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相、平均値、実効値の計算ができる。2. 正弦波交流の複素数およびフェーザ表示を説明できる。3. R、L、C 素子における正弦波交流電圧と電流の関係を説明できる。【授業形態：講義】	

専門科目	選択必修	電気回路Ⅱ		(概要) 電気工学のあらゆる分野の基礎となる科目である。正弦波交流の基本を説明し、複素数やベクトルを用いた回路計算法に習熟させるため、交流回路の電圧、電流、電力の計算法等を例題・演習問題を中心に授業を進める。(到達目標) 1. キルヒホッフの法則、重ね合わせの理やテブナンの定理を説明し、交流回路の計算ができる。2. 網目電流法や接点電位法を用いて交流回路の計算ができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気回路Ⅲ		(概要) 電気回路の基礎を学習した学生に対して、共振現象、ベクトル軌跡、多相交流、過渡現象等について理解を深めるとともに、応用力を養うことを目的とする。本授業は進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 回路の共振現象を理解し、問題が解けること。2. ベクトル軌跡について理解し、問題が解けること。3. 対称三相交流回路について理解し、問題が解けること。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気回路Ⅳ		(概要) 電気回路の基礎を学習した学生に対して、過渡現象、ひずみ波等について理解を深めるとともに、応用力を養うことを目的とする。本授業は進学と就職に関連する。(到達目標) 1. 基本的な過渡現象について理解し、問題が解けること。2. ひずみ波交流について理解し、問題が解けること。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気回路Ⅴ		(概要) 各種回路の過渡現象、各種回路の四端子回路表示について基礎的な解析方法から応用技術までを説明する、また回路解析に必要な計算能力が習得できるよう多くの演習問題を課題として学習できるように配慮する。(到達目標) 1. ラプラス変換を利用して電気回路の過渡現象が計算でき、その物理現象が説明できる。2. 各種四端子回路の表現算出、等価変換、動作伝送量の計算ができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気回路Ⅵ		(概要) 伝送回路、分布定数回路、整合回路について基礎的な解析方法から応用技術までを説明する、また回路解析に必要な計算能力が習得できるよう多くの演習問題を課題として学習できるように配慮する。(到達目標) 1. 伝送線路、伝送回路の計算や整合回路の設計ができる。2. 分布定数回路の反射、伝送量の計算ができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電子回路Ⅰ		(概要) トランジスタに代表される能動素子を電子回路に応用する技術について学習する。特に増幅回路を中心に、回路構成、動作解析、設計手法について講義する。(到達目標) 1. トランジスタの代表的なバイアス回路を解析できる。2. トランジスタの等価回路の記述ができる。3. 4端子回路の各種パラメータを導出・換算できる。4. トランジスタの各接地方式についてパラメータ換算できる。5. 雑音の特性と原因についての説明、及びデシベル計算ができる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	電子回路Ⅱ		(概要) トランジスタに代表される能動素子を電子回路に応用する技術について学習する。特に増幅回路を中心に、回路構成、動作解析、設計手法について講義する。(到達目標) 6. 増幅器の機構と種類について説明できる。7. 非同調増幅回路における動作量の計算ができる。8. 同調増幅回路における動作量の計算ができる。9. 帰還増幅回路、オペアンプ回路の動作量の計算ができる。10. 電力増幅回路の種類と特性について説明できる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	電気電子材料		(概要) 電気電子工学、電子物性、情報通信工学等の分野を学ぶためにはいろいろな材料の基本的性質を学習する必要がある。電気電子工学材料について、マクロ的な立場、及びミクロ的な立場から学習していく。(到達目標) 1. 材料の成り立ちと原子の結合について簡単に理解する。2. バンド理論について簡単に説明できる。3. 電子状態と結晶構造について理解する。【授業形態：講義】	

専門科目	選択必修	電子工学Ⅰ		(概要)半導体の動作原理や回路技術の基礎を学ぶ。電子産業で利用されるデバイスや回路技術などを織り交ぜながら電子工学を習得する。(到達目標) 1. 半導体動作の基本となる量子論について理解する。2. 帯理論の基礎とその意味を理解する。3. 半導体中で電気伝導を担う電子や正孔の数を表現する統計力学に基づく状態密度などを理解する。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	電子工学Ⅱ		(概要)半導体の動作原理や回路技術の基礎を学ぶ。電子産業で利用されるデバイスや回路技術などを織り交ぜながら電子工学を習得する。(到達目標) 1. CMOSデバイスデバイスの構造や製造方法を学ぶ。2. 演習を通じてCMOSデバイス関連の設計や動作解析を通じて、デバイス動作の基本を理解する。3. 発光素子や受光素子の構造と動作を学び、半導体に対する理解を深める。4. CCDデバイスの動作や基本特性を学び、アナログ回路に対する理解を深める。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	電気磁気学Ⅰ		(概要)マクスウェルの方程式を理解する過程として、静電界について電界、電位などの基本法則を理解することを目的とする。本授業は学力の向上に必要で、就職および進学の両方に関連する。(到達目標) 1. 積分表現によるクーロンの法則、ガウスの法則が理解でき、電界の計算ができる。2. 静電ポテンシャルが理解でき、電位の計算ができる。3. 様々な電極構造に対して電界、電位の計算ができる。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	電気磁気学Ⅱ		(概要)マクスウェルの方程式を理解する過程として、静電界について電界、電位などの基本法則を理解することを目的とする。本授業は学力の向上に必要で、就職および進学の両方に関連する。(到達目標) 1. 微分表現によるガウスの法則が理解でき、電界や電位の計算ができる。2. 静電容量の計算ができる。3. 誘電体中の電界などの計算ができる。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	電気磁気学Ⅲ		(概要)磁気現象を担う磁荷・磁界、電磁波の物理象を獲得し、その数学的取り扱い法の詳細を具体例を交えて学習する。(到達目標) 1. 電磁界現象の概要を説明できる。2. 電流が作る磁界を計算できる。3. 電磁力の計算ができる。4. 電磁誘導の定式化とその応用ができる。5. インダクタンスの計算ができる。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	電気磁気学Ⅳ		(概要)磁気現象を担う磁荷・磁界、電磁波の物理象を獲得し、その数学的取り扱い法の詳細を具体例を交えて学習する。(到達目標) 6. 電磁エネルギーの計算ができる。7. 交流回路、過渡現象の計算ができる。8. 磁性体の磁気現象が説明できる。9. 磁気回路を計算できる。10. 永久磁石を定量評価できる。11. 平面波解析ができる。【授業形態:講義】	
専門科目	選択必修	制御情報工学Ⅰ		(概要)制御とは「ある目的に適合するように対象となっているものに所要の操作をくわえること」と定義されている。このような操作を分析する事から出発し、機械装置にこれを行わせる自動制御系について学習する。(到達目標) 1. 簡単なラプラス変換、逆変換を行うことができる。2. 微分方程式からラプラス変換を用いて伝達関数を求めることができる。3. ブロック線図を用いてシステムを表現することができる。【授業形態:講義】	☆
専門科目	選択必修	制御情報工学Ⅱ		(概要)制御とは「ある目的に適合するように対象となっているものに所要の操作をくわえること」と定義されている。このような操作を分析する事から出発し、機械装置にこれを行わせる自動制御系について学習する。(到達目標) 1. 周波数応答の意味が分かる。2. 1次系および2次系のベクトル軌跡の概形を描ける。3. 1次系および2次系のボード線図から系の安定判別を行うことができる。【授業形態:講義】	☆

専門科目	選択必修	電気・電子・情報計測Ⅰ		（概要）電気現象を観測できるようにするのが電気計測で、正確な計測には測定原理の知識が不可欠です。計測の基本について概説し、電気および磁気量測定に使用される各種計器について説明し、測定時の注意事項についても学習する。 （到達目標）１．単位、標準、誤差について説明でき、関連する計算ができる。２．直流測定について説明でき、関連する計算ができる。３．交流測定について説明でき、関連する計算ができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	電気・電子・情報計測Ⅱ		（概要）目に見えない電気を扱う上で、電気計測は基礎となるものである。正確な測定をおこなうためには、計測に関係する知識を身につけておく必要がある。本講義では基本である電気量並びに磁気量測定に関する各種計器の動作を説明し、測定上の注意事項について学ぶ。（到達目標）１．インピーダンスの測定法を理解する。２．電気信号の波形観測法と周波数測定法について理解する。３．磁界測定と磁化測定について理解する。４．電磁波の測定について理解する。 【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報処理Ⅰ		（概要）本授業では、情報処理に関する基礎知識を学習する。また情報を処理・活用する上で重要なプログラミングと情報倫理・情報セキュリティの基礎も学ぶ。本授業は進学と就職に関連する。前期の「情報リテラシー」と本授業を修得することで、文部科学省が認定している「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に到達することができる。（到達目標）１．コンピュータ内部の数字を説明できる。２．プログラミングの基礎を説明できる。３．情報倫理・情報セキュリティの基礎を説明できる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報処理Ⅱ		（概要）C言語によるプログラミング技術を身につける。（到達目標）１．文字の入出力と簡単な数値計算のプログラムを作成できる。２．条件分岐と繰り返しを用いたプログラムを作成できる。３．多重繰り返しを使った応用プログラミング法を身につける。４．配列の利用方法を理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報処理Ⅲ		（概要）C言語によるプログラミング技術を身につける。（到達目標）１．配列を用いたプログラムを作成できる。２．組み込み関数の使い方や関数の作り方を理解する。３．ポインタについて知り、使い方や受け渡しについて理解する。４．ファイルを用いたデータの入出力が行える。５．構造体・共用体を理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	論理回路		（概要）ディジタル計算機の原理やハードウェアの構造を理解するために、論理回路、順序回路について学習する。本授業は就職および進学の両方、資格取得に関連する。（到達目標）１．ブール代数、カルノー図の基本演算ができる。２．組合せ回路について理解し真理値表、論理式、論理回路を書くことができる。３．順序回路について理解し遷移表、論理式、論理回路を書くことができる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	知能情報処理		（概要）一般的に良く知られている基本的なアルゴリズムを紹介しながら、効率の良いアルゴリズムの設計の基本的な考え方と技法について学ぶ。本授業は就職および進学の両方、資格取得に関連する。（到達目標）１．Pythonを用いたプログラミングができる。２．データ構造とアルゴリズムについて理解しプログラムを書くことができる。３．再帰・ソート・探索について理解しプログラムを書くことができる。 【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	IoTシーケンス制御		（概要）産業界においては自動化・省力化が盛んに行われているが、その一端を担っているものにシーケンスによる自動制御がある。その基本となるリレー・シーケンスを学習し、次いでPLC(Programmable Logic Controller)を学習し、演習を行う。本授業は進学と就職に関連する。（到達目標）１．インターロック回路、周期動作回路などの各回路を理解してPLCで使用できるようになること。２．ブール代数、真理表、フェン図、カルノー図について理解すること。３．与えられた課題についてPLCを用いて制御回路を構築し、PLCのプログラムを作成し課題レポートを提出する。【授業形態：講義】	

専門科目	選択必修	ものづくり実習		（概要）ものづくりに関する基礎的な実習を体験することで、電気情報工学の技術に対する興味・関心を高め、今後の学習に意欲的となることを目的とする。本実験実習は就職および進学、人間力形成に関連する。（到達目標）1. 基本的な電子工作を行うことができる。2. 回路図を正しく理解することができる。3. 電子工作に必要なソフトウェアを扱うことができる。【授業形態：実習】	共同
専門科目	必修	電気知能情報工学実験Ⅰ		（概要）電気知能情報工学に関する各種法則・理論を実験を通して学びつつ、レポートの書き方について学習する。（到達目標）1. 実験結果について、正しくデータ整理と提示ができる。2. 実験結果について、正しい表現で論述できる。3. オシロスコープ、テスタの使い方を習得する。4. 電気・電子回路を自らデザインし、作成できること。5. 電子回路作成の基本的な技術を身につける。【授業形態：実験】 （オムニバス方式／全30回） （0 氷室 貴大／15回） Arduinoを用いたアナログセンシングとLCD表示、LCD（液晶ディスプレイ）表示器の製作、Arduinoを用いたデジタルセンサの利用、Arduinoを用いた論理回路演習、Analog Discoveryを用いた交流計測、画像処理演習、ディープネットワーク演習の実験を担当する。 （0 平野 旭／15回） シミュレーションによる論理学習（オームの法則・電位降下法）、オームの法則の実験、電位降下法による中位抵抗の測定、アナログテスタの使い方、オシロスコープの使い方、電子回路シミュレータ演習の実験を担当する。	オムニバス方式
専門科目	必修	電気知能情報工学実験Ⅱ		（概要）電気知能情報工学の基礎的な法則・理論について電気計測実験を行ったり、電子回路の基礎となる素子について使用方法を学ぶなど、実験を通じて技術者の素養を身につけることを目的とする。本実験は学力の向上に必要で、就職および進学の両方に関連する。（到達目標）1. 回路網定理、過渡現象、電力の基本を習得すること。2. ダイオード、トランジスタの電子素子の基本を習得すること。3. 論理回路・マイコンの基本を習得すること。【授業形態：実験】 （オムニバス方式／全30回） （0 横瀬 義雄・0 吉川 祐樹／15回）（共同） 共振回路の測定、インダクタンス・静電容量の測定、単相電力の測定、過渡現象、回路網定理に関する実験、ダイオードの実験、トランジスタ実験、マイコン実習（2）、ウェブ管理実習、ディジタル論理回路演習Ⅰ：入出力編の実験を担当する。 （0 板東 能生・0 城明 舜磨／15回）（共同） 発光ダイオードとフォトトランジスタ実験、マイコン実習（3）、電界効果トランジスタの基礎実験、OPアンプによる増幅回路実験、PINフォトダイオードを用いた放射線測定、変圧器の特性実験、直流モータの特性実験、直流モータのデューティファクタ制御、ディジタル論理回路演習Ⅱ：組合せ論理回路、ディジタル論理回路演習Ⅲ：順序回路の実験を担当する。	オムニバス方式 ・共同（一部）

専門科目	必修	電気知能情報工学実験Ⅲ		(概要) 電気知能情報工学の基礎的な法則・理論について実験を行う。本授業は就職および進学の方、資格取得に関連する。(到達目標) 1. トランジスタの増幅回路、振幅変調・周波数変調回路を理解する。2. マイコンの開発手法を習得し、組込技術について理解する。3. 各種電気機器の諸特性とその計測方法を習得する。4. Matlabやフィルタ設計ツールの基本的使い方を習得する。5. アセンブラやC#、Node-REDなどのプログラミングを習得する。6. AIを用いた開発手法を習得する。【授業形態：実験】 (オムニバス方式／全30回) (0 横沼 実雄・0 服部 佑哉／15回) (共同) 交流回路網、電子デバイス、電子回路、電気機器、電力変換回路、および電力変換制御の基礎的な法則・理論について電気計測実験を担当する。 (0 城明 舜磨・0 平野 旭／15回) (共同) 情報通信工学、AIの基礎的な法則・理論についての実験を担当する。	オムニバス方式 ・共同 (一部)
専門科目	選択必修	情報通信工学		(概要) 情報の伝達手段について学習し、電気通信工学の基礎の習得と、今日実用に供されている各種通信方式の概要把握を目標とする。(到達目標) 1. 情報源を電気信号に変換する概要が説明できる。2. PCM方式の概要が説明できる。3. アナログ、デジタル変調方式が説明できる。4. 各種多重分割伝送方式の概要が説明できる。5. 有線・無線伝送線路とそれを用いた通信方式が説明できる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	情報理論		(概要) 情報理論は情報工学の一分野であり、情報・通信を数学的に論じる教科である。講義では確率論、情報量と符号化法について学ぶ。(到達目標) 1. 情報量、エントロピーの意味を理解し、計算が容易にできること。2. シャノンの符号化、ハフマンの符号化について理解する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	数値最適化		(概要) 最適化アルゴリズムの数学的基礎について学んだ後、代表的な無制約非線形最適化のアルゴリズムの最急降下法、ニュートン法、準ニュートン法について学ぶ。その後、線形計画の代表的解法の単体法を学び、最後に制約付き非線形最適化問題の最適性条件や数値解法に触れる。(到達目標) 1. 最適化アルゴリズムの数学的基礎について理解する。2. 最急降下法などの無制約非線形最適化アルゴリズムの理論を学び、非線形最適化問題に適用することができる。3. 遺伝的アルゴリズムなどの組み合わせ最適化アルゴリズムの理論を学び、組み合わせ最適化問題に適用することができる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	データサイエンス		(概要) IoT技術の発展の結果、実環境のデータを大量に集めることが可能となっている。そこで、大量のデータを解析するシステムを構築し、課題解決のために必要なデータを抽出する能力を身につける。(到達目標) 1. データ駆動型社会において、データサイエンスを学ぶことの意義を理解する。2. 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を習得する。3. データベースを操作する手法を習得する。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	機械学習		(概要) 本講義は近年脚光を浴びているAIの中心テーマである機械学習のアルゴリズムの基礎をひととおり学ぶもので、従来広く利用されている機械学習の手法から近年注目を浴びているディープラーニングまでを学習し、実際の問題に実践できるようになることを目的とする。今後、機械学習を用いたデータ分析を行う技術は情報工学のみならずあらゆる分野において必要不可欠な能力である。(到達目標) 1. 機械学習の基礎知識を理解する。2. 機械学習・AIアルゴリズムの実装方法を理解する。3. 目的の問題を解決するのに適した機械学習・AIアルゴリズムを理解する。【授業形態：講義】	☆

専門科目	選択必修	深層学習		(概要) クラウドプラットフォームをはじめとした各種のAIを利用し、実サービスとしてAIを適用する方法論について学習する。また、学習を通じてデータの取得や加工の方法にも言及し、AIを使いこなす能力を身につける。(到達目標) 1. 機械学習の基礎知識を理解する。2. 深層学習アルゴリズムの実装方法を理解する。3. 目的の問題を解決するのに適した深層学習アルゴリズムを適切に選択する技術を習得する。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	信号処理		(概要) 電子・情報通信システムの基盤技術であるデジタル信号処理について基本事項を学び、デジタル信号処理・デジタルフィルタについて理解することを目的とする。(到達目標) 1. Z変換、離散フーリエ変換の計算ができる。2. 離散時間システムの基本事項が理解できる。3. デジタルフィルタの特性が理解できる。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報ネットワーク		(概要) 近年の情報ネットワーク分野の進展には目を見張るものがある。現在、無線通信技術、光通信技術、IPネットワーク技術などのネットワーク技術と情報セキュリティ技術の革新により、「いつでも、どこでも、なんでも、だれでも」「安心に・安全に」つながるネットワーク環境が整備されている。本講義は情報ネットワークとセキュリティの基本的な仕組みや基本技術を学ぶ。本授業は就職および進学の両方、資格取得に関連する。(到達目標) 1. 情報ネットワークの基本的な仕組みや基本技術を理解する。2. TCP/IPネットワークに関する技術を習得する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	情報セキュリティ		(概要) 情報セキュリティの基礎知識を網羅的に理解し、それを実際の状況に適用する実習を通じて、サイバー攻撃のリスクを正しく把握し、その重大性を評価する能力の育成にも焦点を当てる。本講義の目的は、刻々と変化する状況に対応しながらセキュリティ対策を継続的に実行できる専門人材の養成である。(到達目標) 1. 情報セキュリティの基本的な仕組みや基本技術を理解する。2. 暗号技術に関する知識を習得する。3. サイバー攻撃のリスクを把握し、その重大性を評価する能力を習得する。4. セキュリティ対策に関する技術を習得する。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	情報数理		(概要) プログラミング作成と数学的理論を利用して、より高度なアルゴリズムの学習やプログラムの作成を行う。内容は、線形代数、補間法、数値積分、数値暗号である。使用するソフトウェアはC言語とPython言語が中心になるが、課題に応じて他の言語、あるいは数式処理ソフトも利用する。(到達目標) 1. 線形代数について理解する。2. 補間法、数値積分について理解し、プログラミング技術について習得する。3. 数値暗号について理解し、プログラミング技術について習得する。【授業形態：講義】	
専門科目	選択必修	エネルギー変換工学		(概要) 変圧器や誘導電動機の基礎と理論・特性を勉強することにより、これらの機器のエネルギー変換がどのように行われるかを理解習得する。また、最新の理論についても講義を行う。(到達目標) 1. 理想変圧器の特性に関する計算ができる。2. 誘導電動機の構造と回転原理について説明できる。【授業形態：講義】	☆
専門科目	選択必修	スマートエネルギー変換工学		(概要) 主として直流機と同期機を中心に講義を行い、最新の理論についても講義を行う。前半では、直流機の基礎理論、構造、特性、始動・速度制御等について講義する。後半では、同期発電機の基礎理論、構造、特性解析、並行運転、同期電動機等の講義をする。(到達目標) 1. 主な電気機器の種類および特長を基に応用分野を説明できる。2. 誘導機の等価回路を描くことができ、各要素を説明できる。3. 誘導機のベクトル図、円線図を用いて、損失や効率について説明および計算ができる。4. 直流機の構造および動作理論について説明および応用計算ができる。5. 直流発電機および電動機について、特性曲線等から必要な計算ができ、運転運用について説明できる。6. 同期機の構造および動作理論について説明および必要な計算ができる。【授業形態：講義】	☆

専門科目	選択必修	スマートエネルギーネットワーク工学		(概要) 発電所から需要家に電力を輸送するためには各種の送配変電設備が必要である。機器の特性や電力系統全体の特性を知り、電力を効率良く安全に輸送するために必要な技術について学習する。また、近年の自然エネルギーの加った際の不安定性を考慮したスマートグリッドなどについての講義を行う。(到達目標) 1. 送電線の等価回路(R-Xモデル, π型モデル)を理解し、電圧、電流、電力の計算ができる。2. 送電線の種類と線路定数の計算ができる。3. 故障計算を理解し、電力系統の短絡、地絡時の電圧、電流が計算できる。4. 電力系統の保護について、目的、方法が説明できる。5. 高圧、低圧配電線の各種構成方式、保護方式が説明できる。【授業形態: 講義】	☆
専門科目	選択必修	スマートエネルギー発生工学		(概要) 日本のエネルギー情勢および電気エネルギーの発生方法とその特徴について学習する。(到達目標) 1. 火力発電、水力発電、原子力発電に関する基本的な問題が解ける。2. スマートエネルギーである新エネルギー発電の概要と特徴が説明できる。【授業形態: 講義】	☆
専門科目	選択必修	IC設計工学		(概要) 現在、大規模デジタル回路設計の主流である、ハードウェア記述言語(HDL)によるデジタル回路の設計手法を学ぶ科目である。(到達目標) 1. Verilog HDLの文法基礎および回路設計の流れを理解する。2. 開発ソフトの操作方法およびFPGAへの実装方法を習得し、理解する。3. 順序回路、組み合わせ回路、ステートマシン等のHDL設計を習得し、理解する。4. シミュレータを使った基礎的な設計検証方法を習得し、理解する。【授業形態: 講義】	
専門科目	選択必修	スマートパワーエレクトロニクス		(概要) パワー半導体デバイスの発達により大きく進化した電力変換回路・システムの原理・基礎について学び、かつその応用技術である省エネルギーやスマートグリッドなどの最新の技術に触れることで高性能電力変換器の要素技術に対する理解を深める。(到達目標) 1. パワー半導体デバイスの構造・駆動方法を理解できる。2. 交流/直流変換器(コンバータ)の基礎を理解できる。3. 直流/交流変換器(インバータ)の基礎を理解できる。4. モータ制御などパワーエレクトロニクス技術応用の最新動向について理解を深める。【授業形態: 講義】	☆
専門科目	選択必修	電気知能情報工学演習		(概要) 電気知能情報工学のもののづくりを実践し、ものづくりの技術を身につける総合学習を行う。製作した成果は雑誌への投稿や、コンテストへ応募するなど学外で評価を受けることを目標にしているので、優れた完成度の高い作品を作らなければならない。(到達目標) 1. ものづくりに必要な知識を高める。2. 製作物の計画・設計を行う。3. 製作物の試験・評価を実施する技術を取得する。4. 実習成果の報告書作成技術を習得しプレゼンテーション能力を習得する。【授業形態: 演習】	留学生に開設
専門科目	選択	校外実習		(概要) 校外実習期間(企業や大学等)において、夏期休業中に実習を行い、技術に対する社会の要請を取得するとともに、学問の意義を理解し、エンジニアとしての自主性を養成する。(到達目標) 1. 校外実習の趣旨と概要を理解する。2. 実習先の調査、条件等を把握する。3. 現場の実情に触れることによって、技術に対する社会の要請を知るとともに、学問の意義を再確認する。4. 学問と生産の関連を体験することにより、自己の能力を開発する基礎を養う。5. 技術者としての問題意識を養い、卒業研究における自主性を高める。【授業形態: 実験・実習】	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。